

庄原市男女共同参画アンケート
住民自治活動への女性の参画に関するアンケート
(市民 / 自治振興区)
調査結果報告書

平成 22 年 6 月

庄原市男女共同参画プラン策定推進委員会
庄原市女性児童課

～ も く じ ～

アンケートの実施について	2
回答者の属性	4
自治振興区の会議や行事への参加・参画について	8
会議での女性の発言について	15
役員への登用について	21
性別による慣習（固定的な役割分担）について	30
自治振興区における女性の活動事例	34
女性の参画のためのそれぞれの取組について	38
庄原市男女共同参画プラン策定推進委員会からの提案	40
（ 資 料 ）	
市の男女共同参画施策に対する意見	45
アンケート用紙（自治振興区用）	52
アンケート用紙（市民用）	58

図表の見方

- (1) 図表中のNまたはnとは、回答者総数または該当質問での該当者数のことです。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が100.0%前後になる場合があります。
- (3) 回答の比率(%)は、該当質問の回答者数(Nまたはn)を基数として算出しています。したがって、複数回答の場合はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。
- (4) クロス集計のグラフや表の場合、表側項目の無回答(たとえば男女別の場合、男性、女性のいずれにも無回答)は省略しています
- (5) 回答の選択肢の文章が長い場合は、短く置き換えて表示しています。
- (6) 各自治振興区の、人口・世帯数・高齢者比率は、平成21年10月1日現在の住民基本台帳及び外国人登録台帳の各自治振興区内の旧行政区のデータにより算出しています。
- (7) 各自治振興区の所在地域、自治振興区内の旧行政区名、センター化の時期、設立時期のデータは、自治振興課のデータによっています。

アンケートの実施について

庄原市における、男女共同参画に関する市民意識や行政に対する要望を把握し、今後の施策に反映していくため、アンケート調査を実施しました。

なお、庄原市男女共同参画プランにおいて「テーマや対象者を変えながら毎年アンケート調査を実施する」ことを明記しています。

1. 調査設計

項目	自治振興区アンケート	市民アンケート
調査対象	庄原市内の自治振興区	庄原市在住の18歳以上（平成22年1月1日現在）の男女
調査数	88自治振興区	1,000名
抽出方法	市内全自治振興区対象	住民基本台帳及び外国人登録から無作為抽出。 ただし、各地域別の配布数は、調査数の概ね20%を均等割、残りを地域別の人口割として算出し、これをあわせたものとする。 なお、抽出に際して、世帯が重複しないものとする。
調査方法	郵送による配布・回収	郵送による配布・回収
調査期間	平成22年2月26日（月） ～3月28日（月）	平成22年2月1日（月）～2月15日（月）

2. 回収状況

	配布数	未着数	実質配布数	回収数	無効票	有効回収数	有効回収率
自治振興区アンケート	88	0	88	88	0	88	100.0%
市民アンケート	1,000	11	989	289	0	289	29.2%

(参考)市民アンケートの地域別回収率

	人口			配布数 計			未着数 計	回答数 計				回収率
	男性	女性	計	男性	女性	計		男性	女性	回答なし	計	
庄原	7,844	8,877	16,721	192	215	407	6	50	57	0	107	26.7%
西城	1,771	2,044	3,815	54	60	114	1	13	15	0	28	24.8%
東城	3,758	4,379	8,137	99	113	212	1	24	32	2	58	27.5%
口和	937	1,080	2,017	35	38	73	2	8	15	0	23	32.4%
高野	862	1,005	1,867	34	37	71	0	10	18	1	29	40.8%
比和	705	836	1,541	30	33	63	0	9	9	1	19	30.2%
総領	638	776	1,414	28	32	60	1	5	11	0	16	27.1%
(回答なし)								0	2	7	9	
計	16,515	18,997	35,512	472	528	1,000	11	119	159	11	289	29.2%
男女構成比	46.5%	53.5%	100.0%	47.2%	52.8%	100.0%		41.2%	55.0%	3.8%	100.0%	

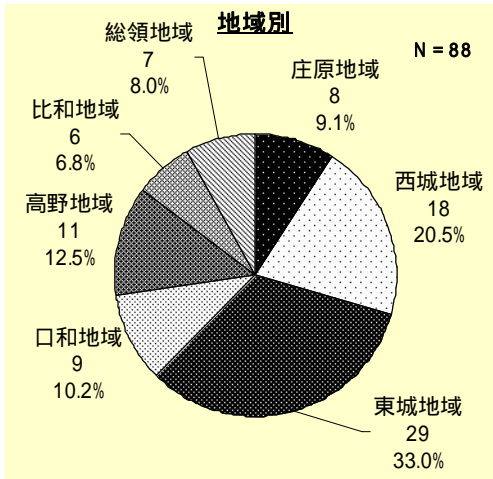
3. アンケート内容

自治振興区アンケート	市民アンケート
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治振興区の会議や行事への参加・参画について ・ 会議での女性の発言について ・ 役員への登用について ・ 性別による慣習（固定的な役割分担）について ・ 自治振興区における女性の活動事例について ・ 市の男女共同参画施策に対する意見 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治振興区の会議や行事への参加・参画について ・ 会議での女性の発言について ・ 役員への登用について ・ 性別による慣習（固定的な役割分担）について ・ 女性の参画のためのそれぞれの取組にかかる意見募集 ・ 市の男女共同参画施策に対する意見

回答者の属性

【自治振興区アンケート】

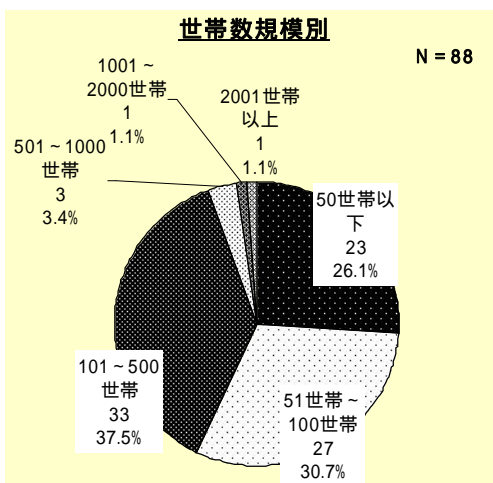
所在地域



「東城地域」が3割、「西城地域」が2割、それ以外の地域が、それぞれ1割前後でした。

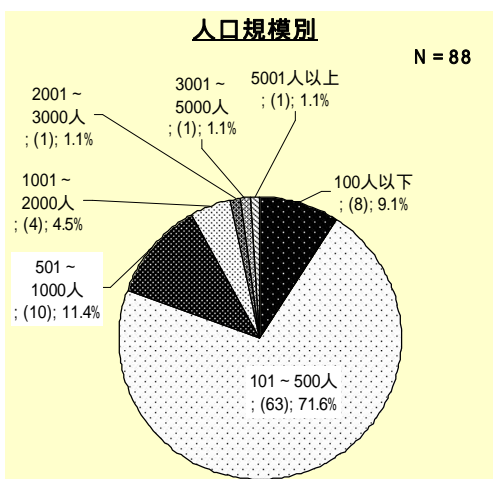
「庄原地域」はセンター化により、自治振興区数では約1割の割合となっています。

世帯数規模



「101~500世帯」規模の自治振興区が約4割、次いで、「51~100世帯」規模の自治振興区が3割、「50世帯以下」が3割弱となっています。

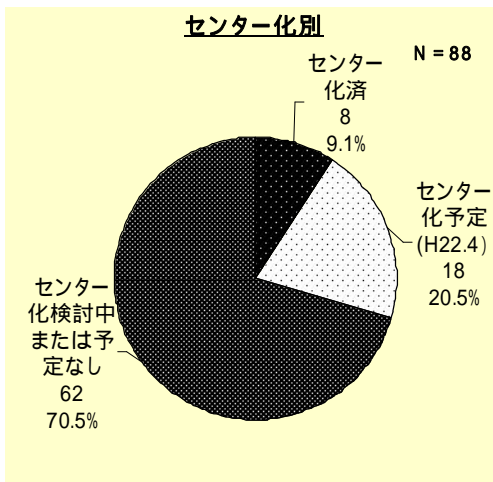
人口規模



「101~500人」規模の自治振興区が約7割で最も多いようです。

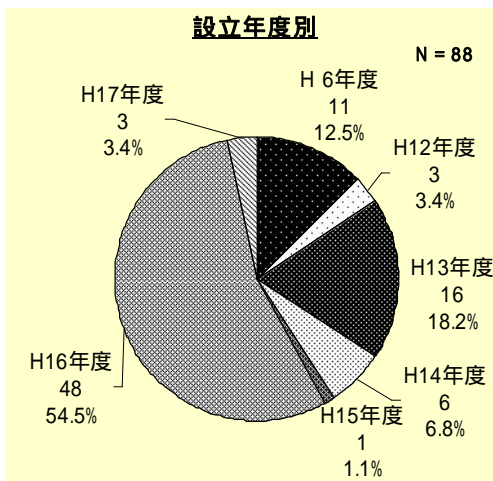
次いで、「501~1000人」規模の自治振興区と、「100人以下」の自治振興区がそれぞれ約1割となっています。

センター化



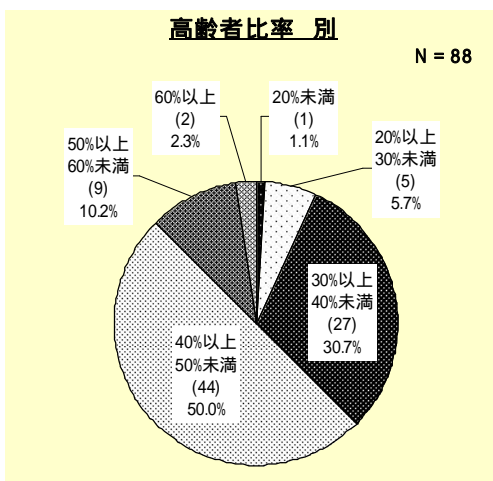
すでに「センター化済」の自治振興区が約 1 割、平成 22 年 4 月に「センター化を予定」している自治振興区が約 2 割、「センター化を検討中または予定なし（センター化していない）」自治振興区が 7 割となっています。

設立年度



「平成 16 年（合併の前年）」に設立した自治振興区が 5 割強、それ以前に設立した自治振興区が約 4 割となっています。

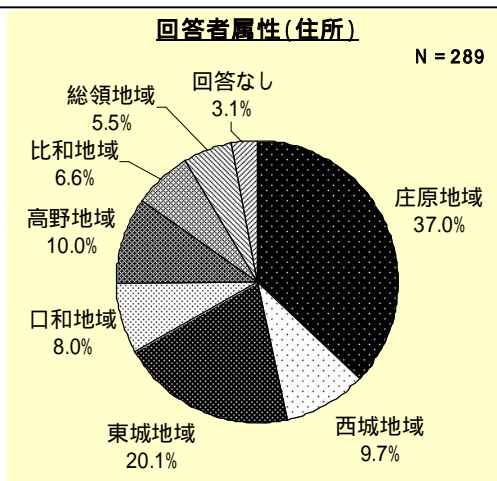
高齢者比率



自治振興区内の人口の高齢者比率（高齢化率）が、「40%以上 50%未満」の自治振興区が 5 割、「30%以上 40%未満」の自治振興区が約 3 割、「50%以上 60%未満」の自治振興区が約 1 割となっています。

【市民アンケート】

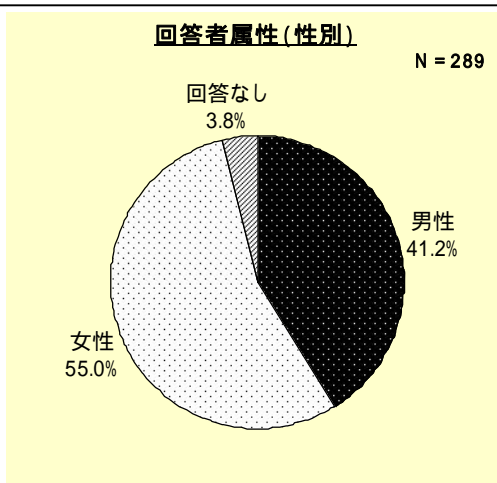
お住まいの地域



	人口	人口 構成比	回答数	構成比	構成比 - 人口構成比
庄原	16,721	47.1%	107	37.0%	10.1%
西城	3,815	10.7%	28	9.7%	1.1%
東城	8,137	22.9%	58	20.1%	2.8%
口和	2,017	5.7%	23	8.0%	2.3%
高野	1,867	5.3%	29	10.0%	4.8%
比和	1,541	4.3%	19	6.6%	2.2%
総領	1,414	4.0%	16	5.5%	1.6%
(回答なし)		0.0%	9	3.1%	3.1%
計	35,512	100.0%	289	100.0%	

「庄原地域」が約4割、「東城地域」が約2割、「西城地域」、「口和地域」、「高野地域」、「比和地域」がそれぞれ約1割、「総領地域」が1割未満となっています。

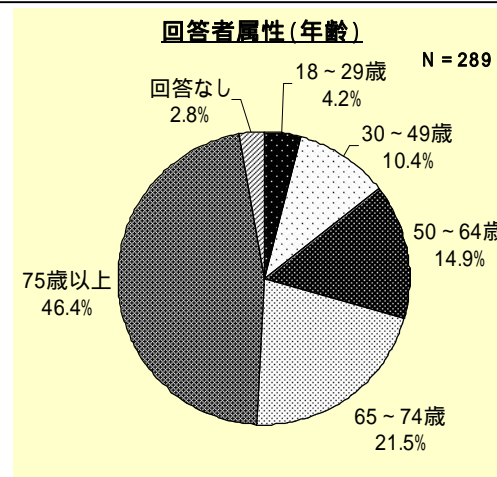
性別



	人口	人口 構成比	回答数	構成比	構成比 - 人口構成比
男性	16,515	46.5%	119	41.2%	5.3%
女性	18,997	53.5%	159	55.0%	1.5%
(回答なし)		0.0%	11	3.8%	3.8%
計	35,512	100.0%	289	100.0%	

「男性」が4割、「女性」が5割強となっています。

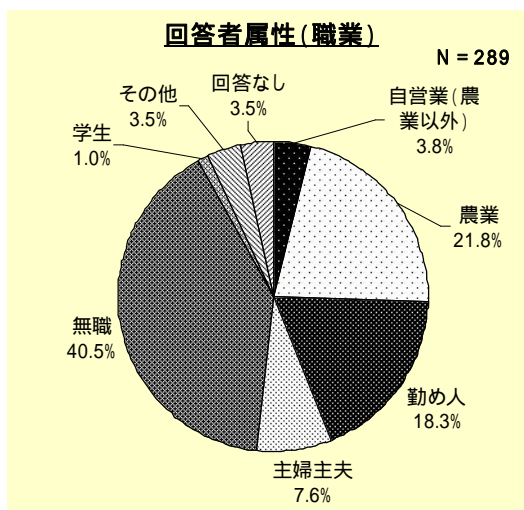
年齢



年齢	人口	人口 構成比	回答数	構成比	構成比 - 人口構成比
18~29歳	3,677	10.4%	12	4.2%	6.2%
30~49歳	7,463	21.0%	30	10.4%	10.6%
50~64歳	9,033	25.4%	43	14.9%	10.6%
65~74歳	5,885	16.6%	62	21.5%	4.9%
75歳以上	9,454	26.6%	134	46.4%	19.7%
(回答なし)			8	2.8%	-
計	35,512		289	100.0%	-

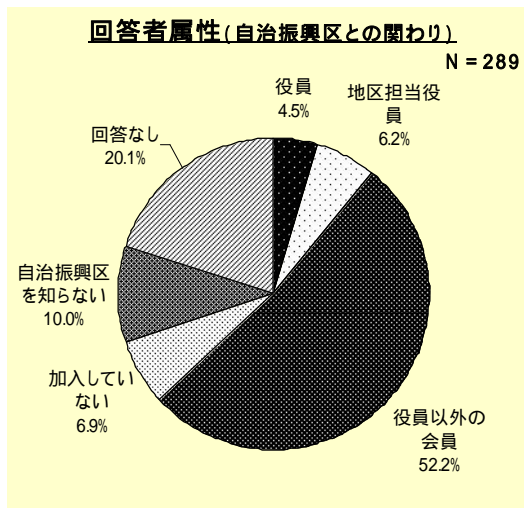
「75歳以上」が約5割、「65~74歳」が約2割で、高齢者の回答が多いようです。

職 業



「無職」が約4割、「農業」、「勤め人」がそれぞれ約2割となっています。

自治振興区との関わり



役員以外の会員が約5割、役員、地区担当役員があわせて約1割となっており、回答者のうち、自治振興区に何らかの形で関わっているのは約2/3程度でした。

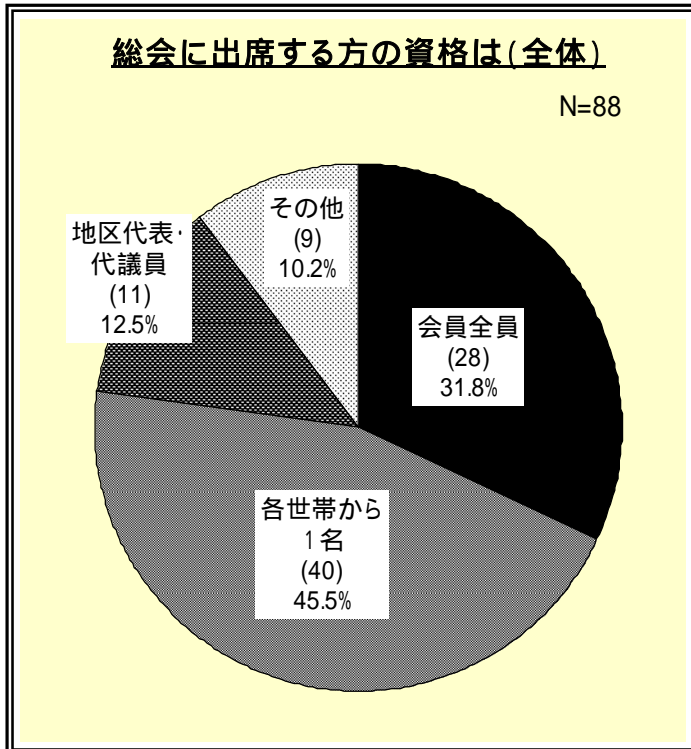
自治振興区を知らないは1割、加入していないは6.9%でした。

自治振興区の会議や行事への参加・参画について

【市民アンケート】は、「自治振興区との関わり」の問いで、『4 自治振興区には加入していない』『5 自治振興区というもの知らない』と回答した方を除いて集計（N=240）

総会に出席する方の資格

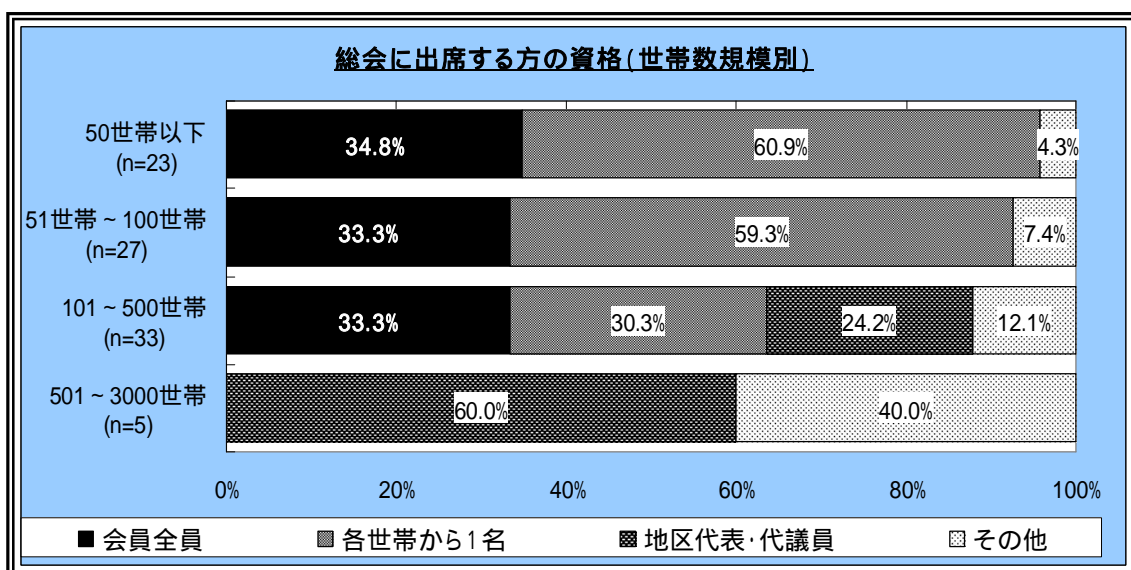
【自治振興区アンケート】



(その他の内容)

- ・ 各世帯から2名 (50世帯以下)
- ・ 運営委員会をもって総会に替えている (51世帯～100世帯)
- ・ 各課の係長、会長以上を持って構成する (51世帯～100世帯)
- ・ 地区班長及び各種構成団体の長 (101～500世帯)
- ・ 地域内に居住する者全員 (101～500世帯)
- ・ 各自治会総代4～7名、計30名 (101～500世帯)
- ・ 役員16名、部員35名 (101～500世帯)
- ・ 各地区から3名、その他専門部より1名(501～3000世帯)
- ・ 各自治会班長が代議員として出席 (501～3000世帯)

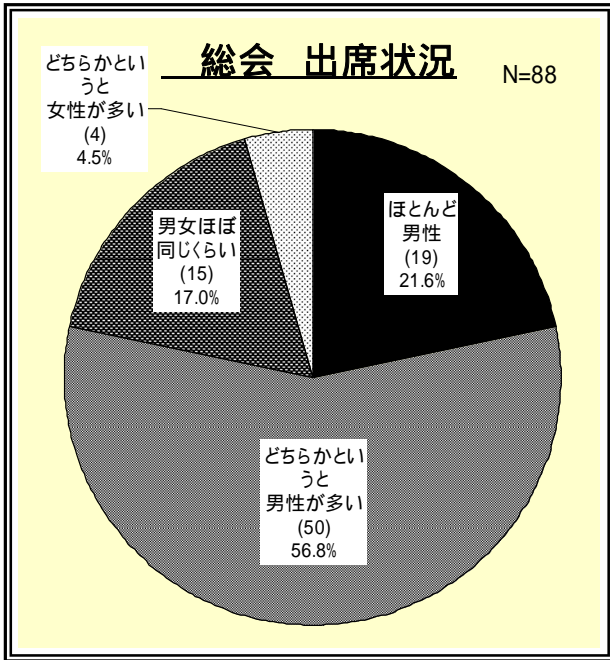
総会に出席する資格は、「各世帯から1名」という自治振興区が約半数、「会員全員」に出席資格がある自治振興区が約3割、「地区代表・代議員」が代表して出席する自治振興区が約1割でした。



世帯数規模別にみると、世帯数規模が小さい自治振興区は「会員全員」と回答した自治振興区が多く、世帯数規模が大きくなると「地区代表・代議員」と回答した自治振興区が多い傾向にあるようです。

男女別出席状況 (総会)

【自治振興区アンケート】

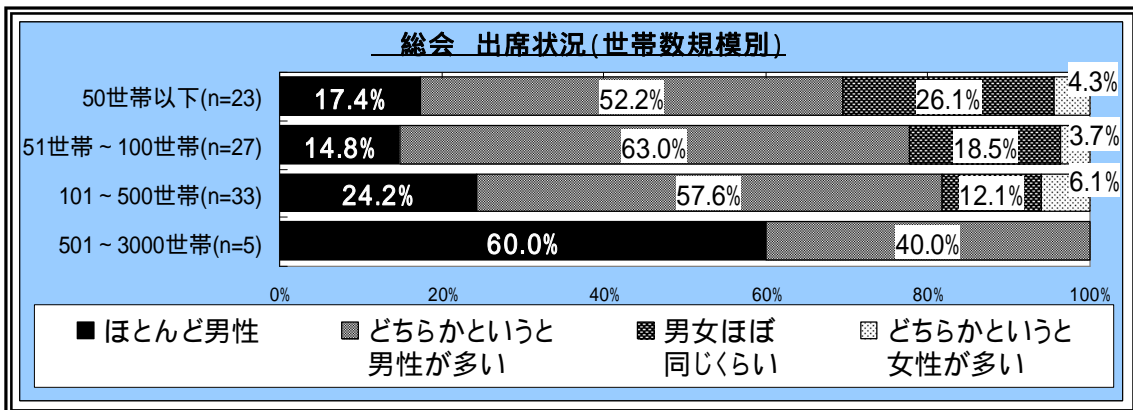


平成 21 年度の総会への出席は、「ほとんど男性」どちらかというとうと男性が多い」をあわせて 78.4%と、約 8 割の自治振興区で男性の出席者が多いと回答しています。

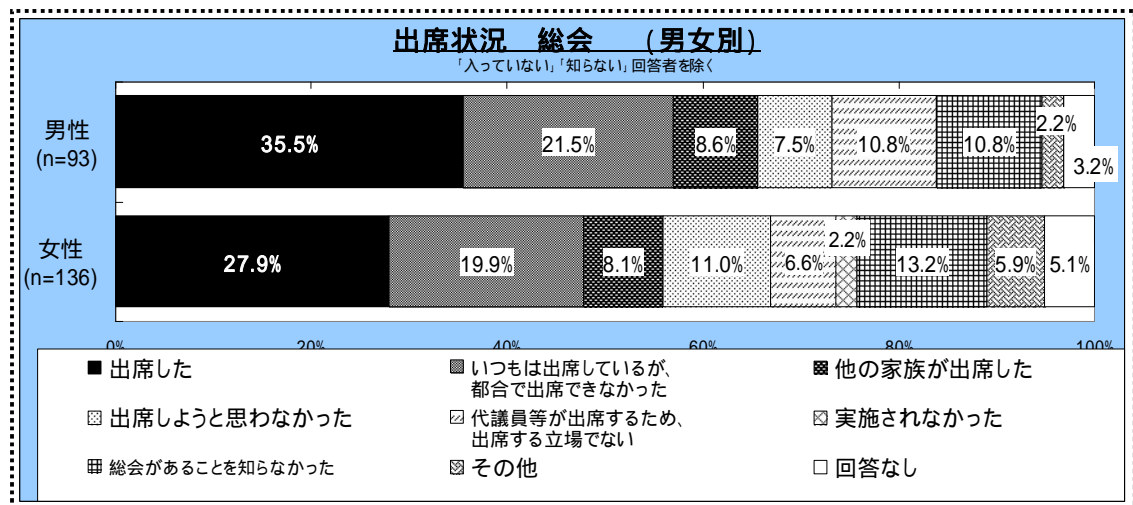
「男女ほぼ同じくらい」と回答した自治振興区は、約 2 割でした。

世帯数規模別にみると、世帯数規模の大きい自治振興区では、ほとんどの自治振興区が総会の出席者は男性のほうが多いと回答しています。

また、規模の小さい自治振興区で、「男女ほぼ同じくらい」と回答した自治振興区の割合が、規模の大きい自治振興区より高くなっています。



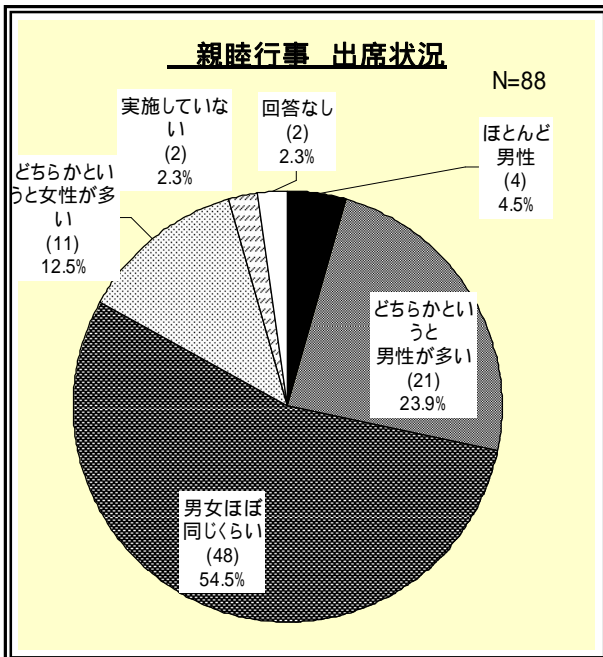
【市民アンケート】



平成 21 年度の総会に、「出席した」「いつもは出席しているが都合で出席できなかった」をあわせると、出席または出席する意向であった方は、男性が 57.0%、女性が 47.8%と、男性の方が割合が高いようです。

男女別出席状況(親睦行事)

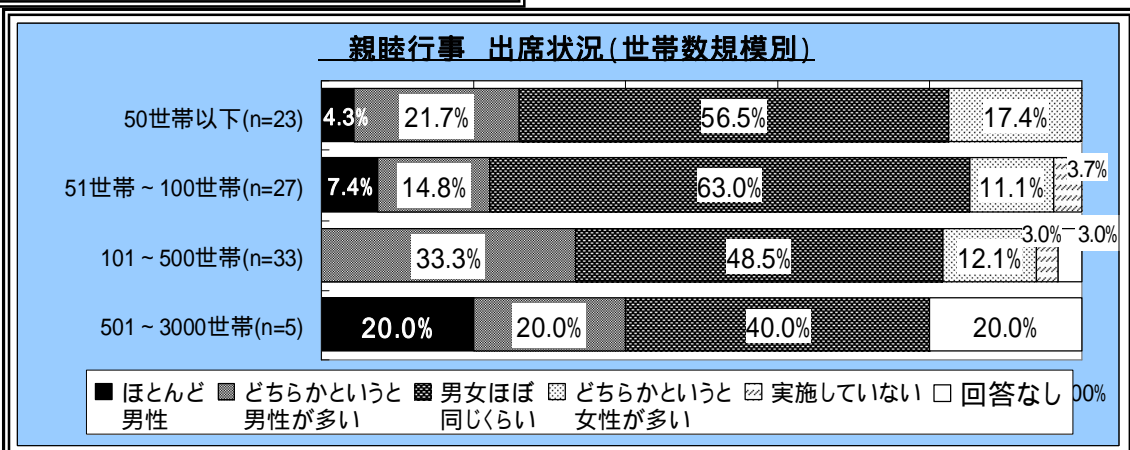
【自治振興区アンケート】



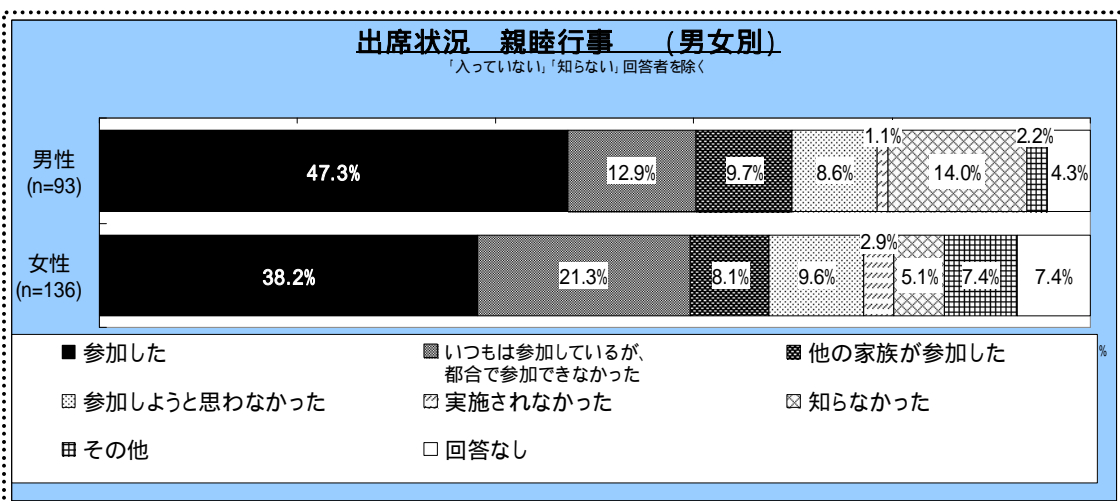
平成 21 年度に開催された親睦行事(お花見、夕涼み会、新年会等)への出席は、「男女ほぼ同じくらい」と回答した自治振興区が約半数となっています。

次いで、「どちらかというと男性が多い」が約 2 割、「どちらかというと女性が多い」が約 1 割でした。

世帯数規模別にみると、どの区分でも「男女ほぼ同じくらい」と回答した自治振興区が最も多いようですが、規模が小さい自治振興区のほうがその割合が高い傾向にあると思われます。



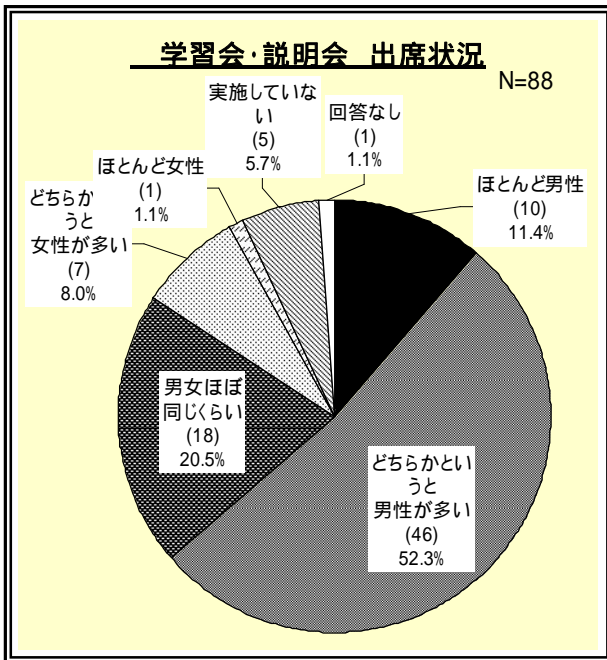
【市民アンケート】



平成 21 年度に開催された親睦行事に「参加した」「いつもは参加しているが都合で出席できなかった」をあわせると、参加または参加する意向であった方は、男女とも約 6 割とほぼ同じくらいの割合でした。しかし、「知らなかった」という回答は、男性が 14.0%、女性が 5.1%で、男性のほうが割合が高いようです。

男女別出席状況(学習会等)

【自治振興区アンケート】

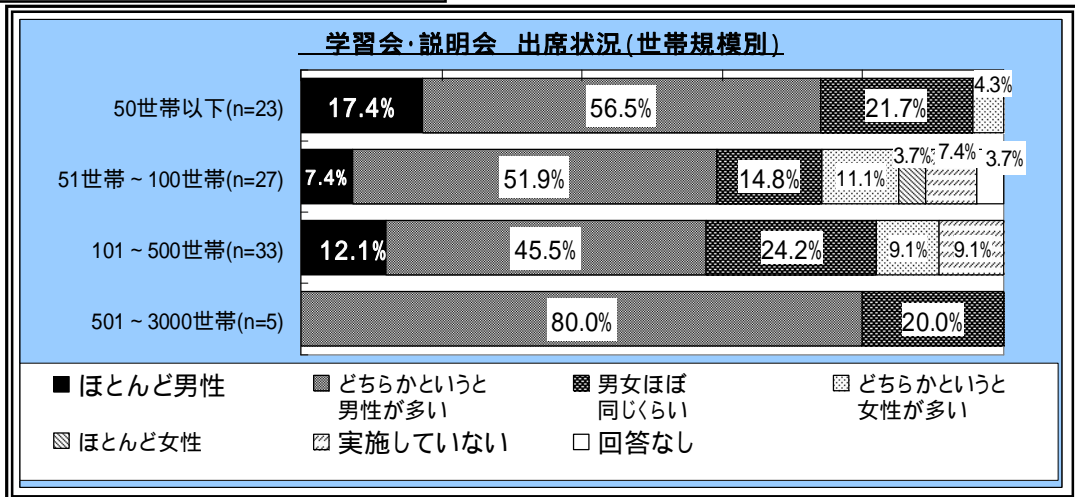


平成 21 年度に開催された学習会等への出席は、「ほとんど男性」「どちらかというと男性が多い」をあわせて 63.7%と、約 6 割の自治振興区で男性の出席者が多いようです。

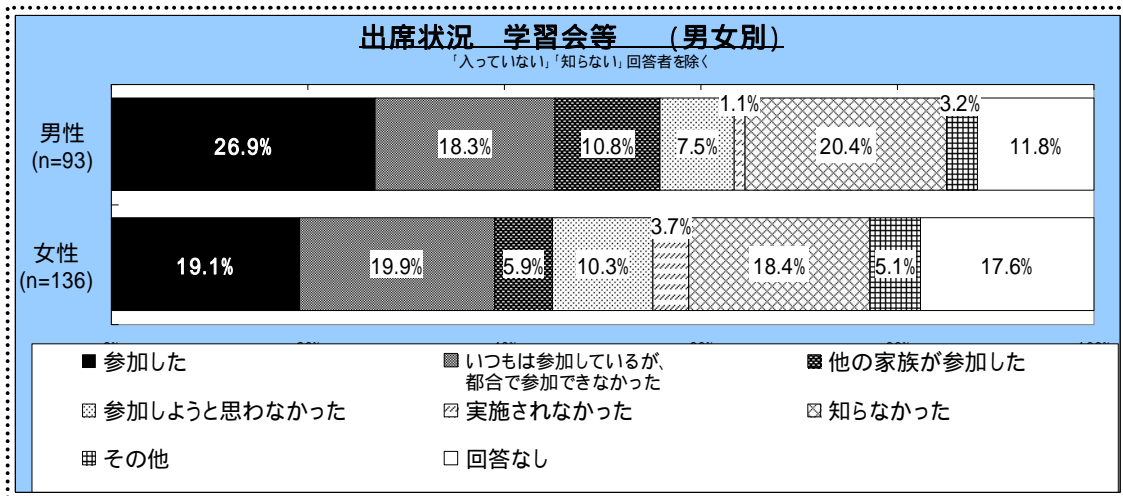
「ほとんど女性」「どちらかというと女性が多い」はあわせて 9.1%で、女性の出席者が多いと回答した自治振興区は、約 1 割でした。

「男女ほぼ同じくらい」と回答した自治振興区は約 2 割となっています。

世帯数規模別では、どの区分も男性の出席者が多くなっています。



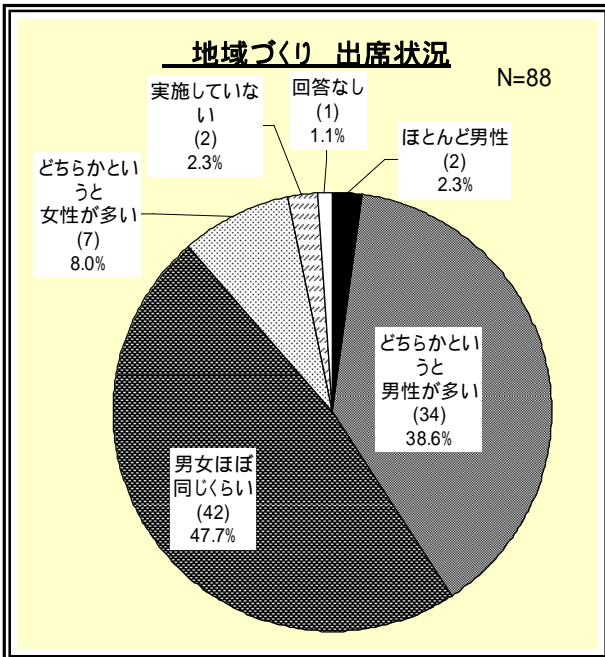
【市民アンケート】



平成 21 年度に開催された学習会等に「参加した」「いつもは参加しているが都合で出席できなかった」をあわせると、参加または参加する意向であった方は、男性が 45.2%、女性が 39.0%と、男性のほうが、やや割合が高くなっています。

男女別出席状況(地域づくり活動)

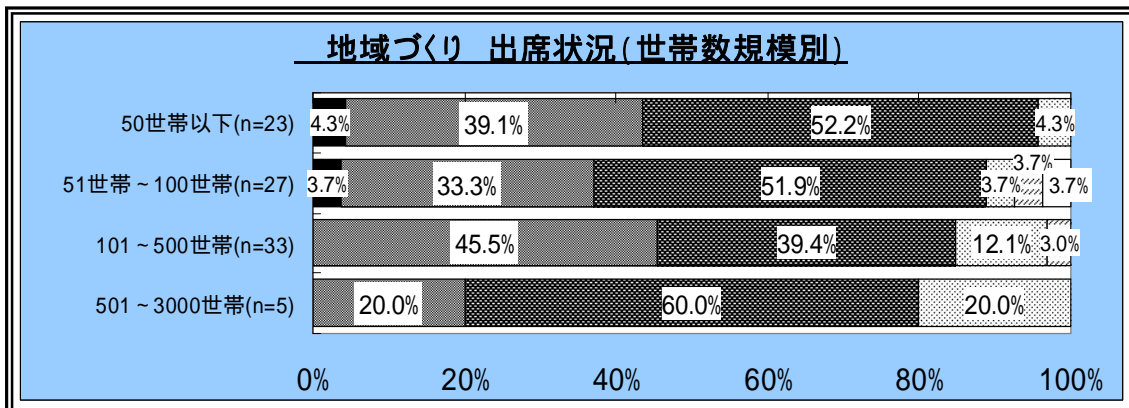
【自治振興区アンケート】



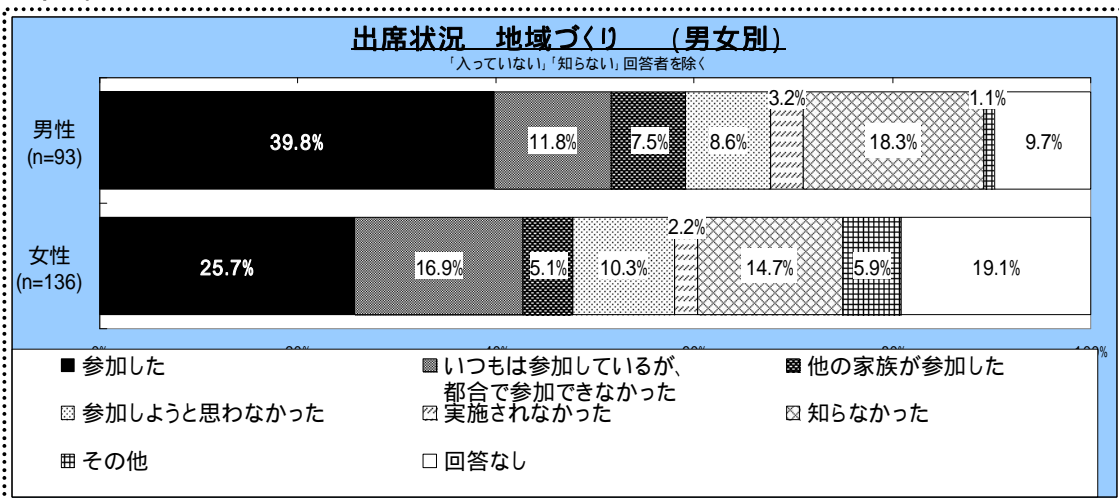
平成 21 年度に実施された地域づくり活動（交流イベント、特産品づくり、マップ作成等）への出席は、「男女ほぼ同じくらい」と回答した自治振興区が約半数となっています。

次いで、「どちらかというとうと男性が多い」が約 4 割、「どちらかというとうと女性が多い」が約 1 割でした。

世帯数規模別にみると、世帯数規模の大きい自治振興区で、「どちらかというとうと女性が多い」という回答の割合が高いようです。



【市民アンケート】



平成 21 年度に開催された地域づくり活動に「参加した」「いつもは参加しているが都合で出席できなかった」をあわせると、参加または参加する意向であった方は、男性が 51.6%、女性が 42.6%と、男性のほうが、割合が高くなっています。

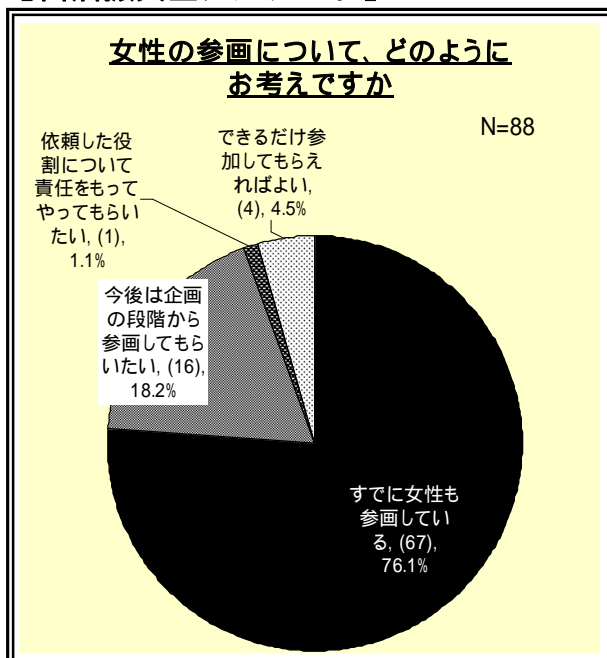
会議や学習会のように意見を言う場への出席者の割合は「男性のほうが多い」という自治振興区が多いようです。特に、規模の大きい自治振興区では、総会への女性の出席が少ない傾向にありますが、これは代議員制を採用されており、女性の代議員が少ないためと思われます。

また、行事や地域づくり活動のように具体的な活動の場への出席者の割合は「男女ほぼ同じくらい」という自治振興区が多く、「女性のほうが多い」と回答した自治振興区もありました。

市民アンケートでは、いずれの会議や行事とも、4～6割の方が、「参加」または「いつもは参加している」と回答されていますが、やや男性のほうが、割合が高いようです。

会議や行事への、女性の関わり方について

【自治振興区アンケート】

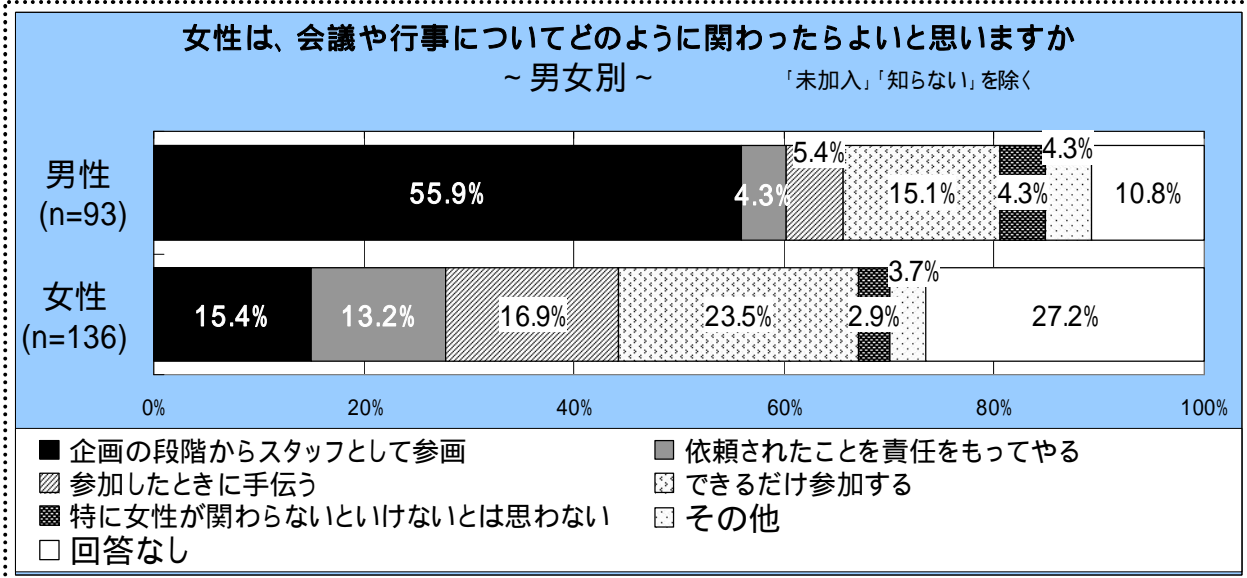
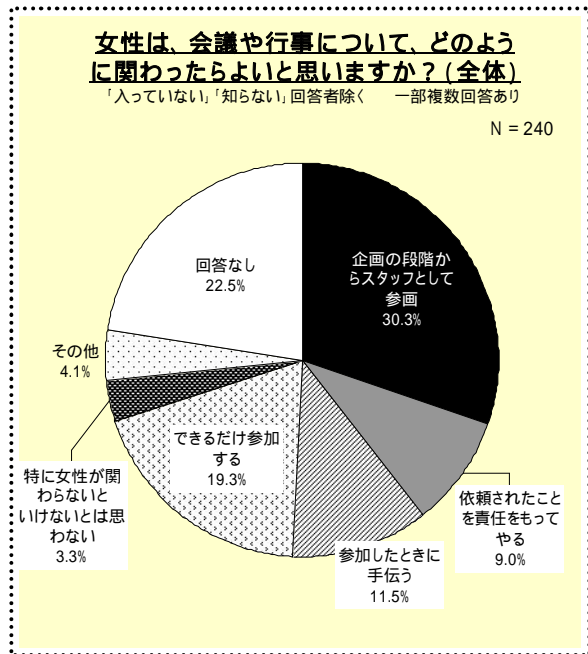


約8割の自治振興区が、自治振興区の会議や行事に「すでに女性も参画している」と回答しています。

また、「今は女性が企画に参画していないが、今後は企画の段階から参画してもらいたい」と回答した自治振興区が約2割となっています。

【市民アンケート】

全体では、約3割の人が「企画の段階からスタッフとして参画する」のがよい、と回答しています。
 次いで「できるだけ参加する」が約2割、「参加したときに手伝う」「依頼されたことを責任をもってやる」がそれぞれ約1割でした。



男女別の回答をみると、男性は半数以上が「企画の段階からスタッフとして参画する」のがよいと回答していますが、女性は15.4%にとどまっており、最も多い回答は、「できるだけ参加する」が23.5%、次いで「参加したときに手伝う」が16.9%となっています。

多くの自治振興区で、企画の段階から女性も参画しており、まだ女性の参画ができていない自治振興区でも、女性も企画の段階から参画してもらいたいと考えています。

また、市民アンケートでも男性は、半数以上が「女性も企画の段階から参画したほうがよい」と回答しています。

しかし、女性は、「できるだけ参加する」「参加したときに手伝う」と回答した方があわせて約4割で、「企画の段階から参画したほうがよい」と回答した人は15%程度にとどまっています。

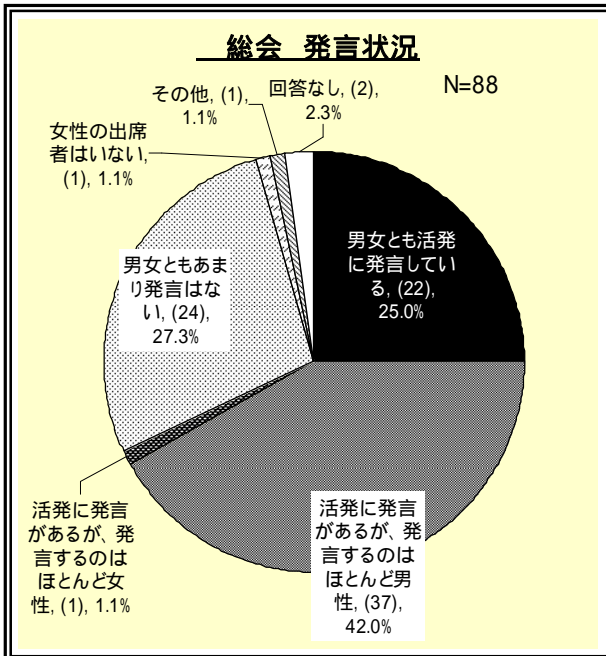
女性の参画について、自治振興区や男性は肯定的に考えているものの、当事者である女性は、あまり積極的ではないようです。

会議での女性の発言について

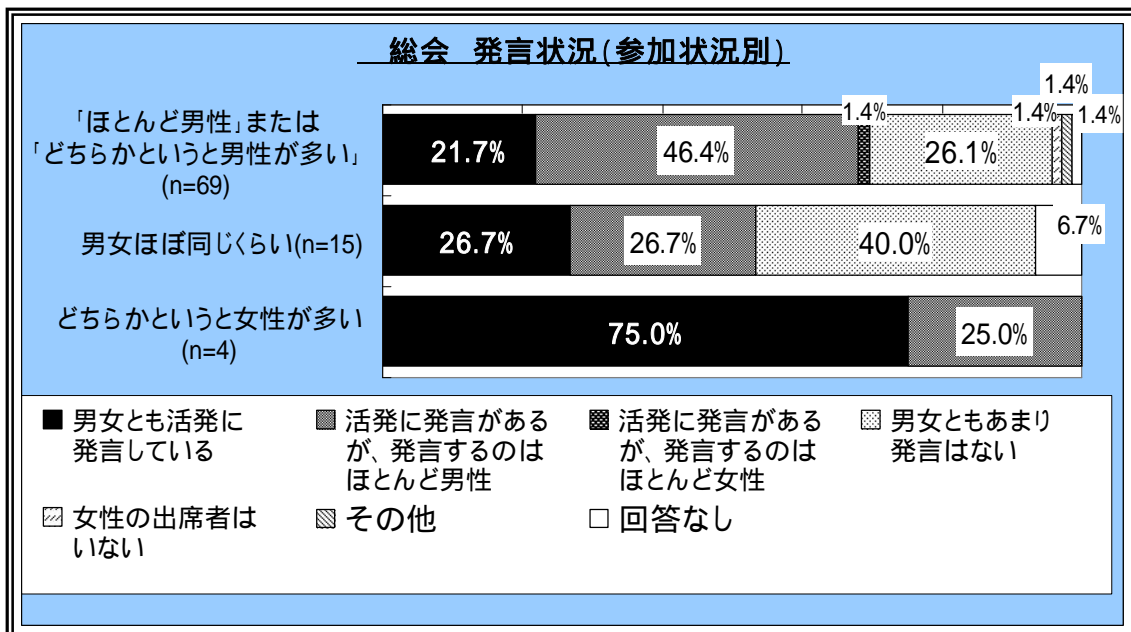
【市民アンケート】は、「自治振興区との関わり」の問いで、『4 自治振興区には加入していない』『5 自治振興区というものを知らない』と回答した方を除いて集計（N=240）

発言状況(総会)

【自治振興区アンケート】



総会については、「活発に発言があるが、発言するのはほとんど男性」が4割、「男女ともあまり発言はない」が27.3%、「男女とも活発に発言している」が25.0%となっています。

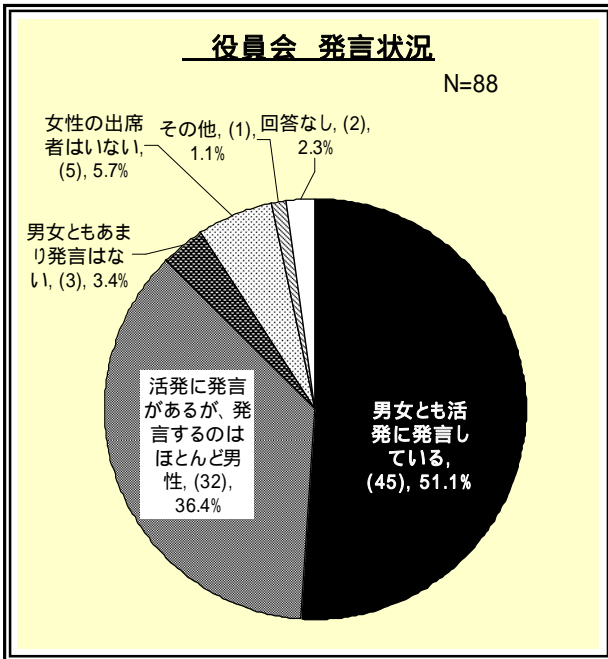


男女の参加状況別にみると、『「ほとんど男性」または「どちらかというと男性が多い」自治振興区では、「活発に発言があるが、発言するのはほとんど男性」と回答した自治振興区が最も多く、約5割で、次いで「男女ともあまり発言はない」が26.1%、「男女とも活発に発言している」が21.7%となっています。

『男女ほぼ同じくらい』の自治振興区では、「男女ともあまり発言はない」と回答した自治振興区が最も多く4割で、「男女とも活発に発言している」「発言するのはおもに男性」がともに26.7%でした。

発言状況(役員会)

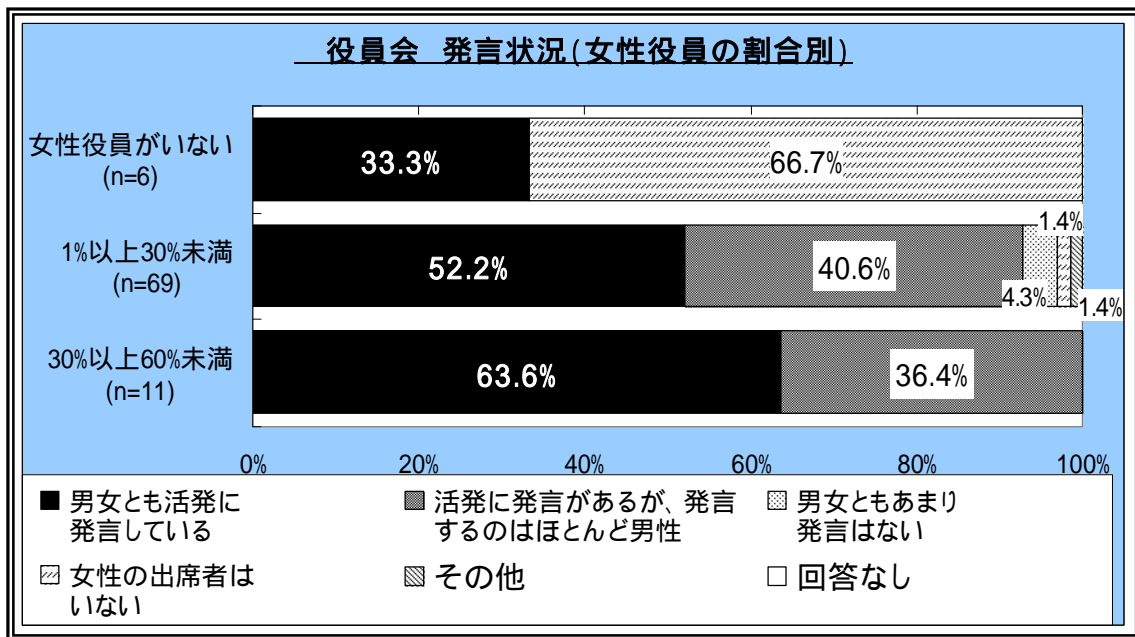
【自治振興区アンケート】



役員会では、「男女とも活発に発言している」と回答した自治振興区が半数でした。

次いで、「活発に発言があるが、発言するのはほとんど男性」が4割となっています。

「女性の出席者はいない」が5.7%ありました。

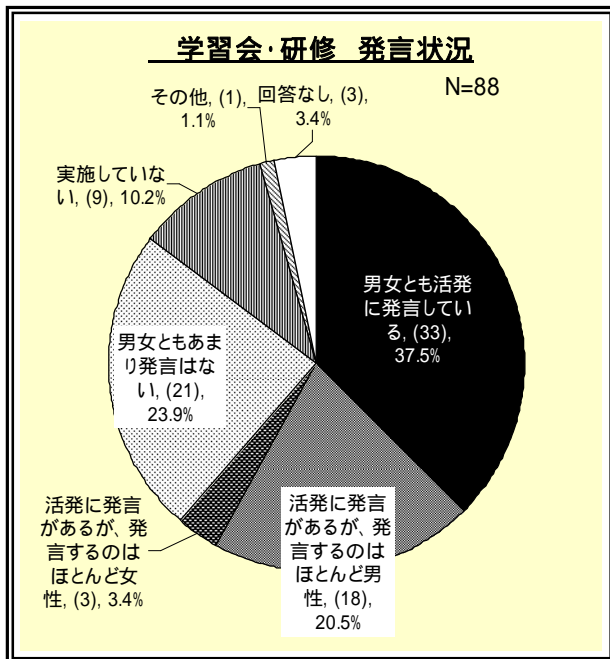


自治振興区の女性役員の割合別にみると、女性役員の割合が高いほうが、「男女とも活発に発言している」と回答した自治振興区の割合が高いものの、女性役員が30%以上の自治振興区であっても、約4割の自治振興区は「発言するのはほとんど男性」と回答しています。

この設問でいう「役員会」は、規約等で定めた役員会に限定していません。

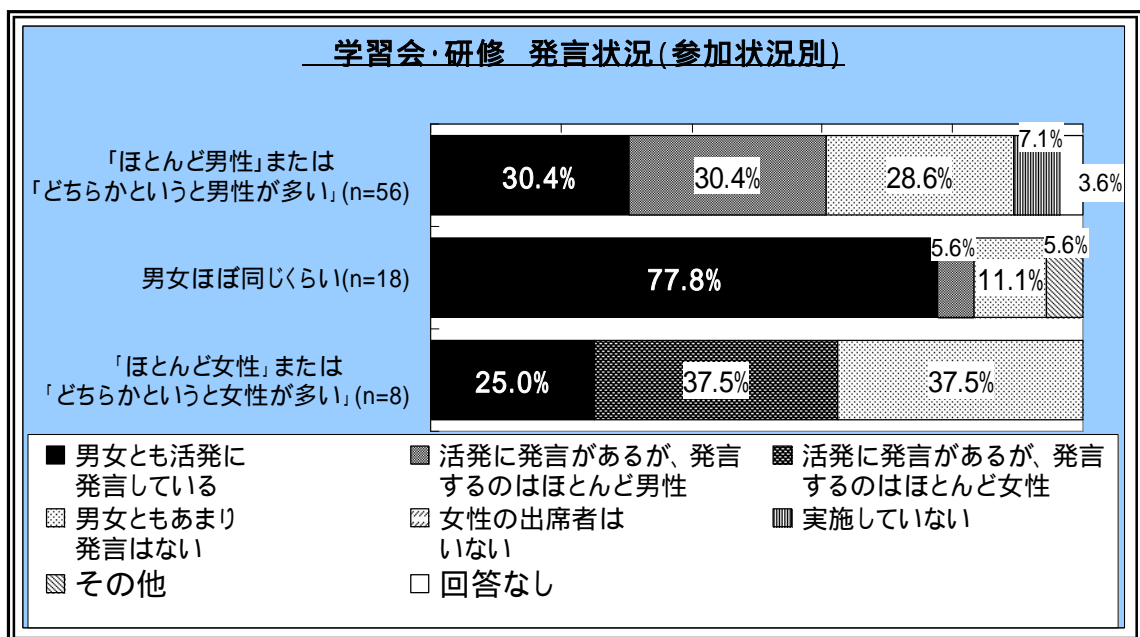
発言状況(学習会等)

【自治振興区アンケート】



学習会等で、「男女とも活発に発言している」と回答した自治振興区が約4割でした。

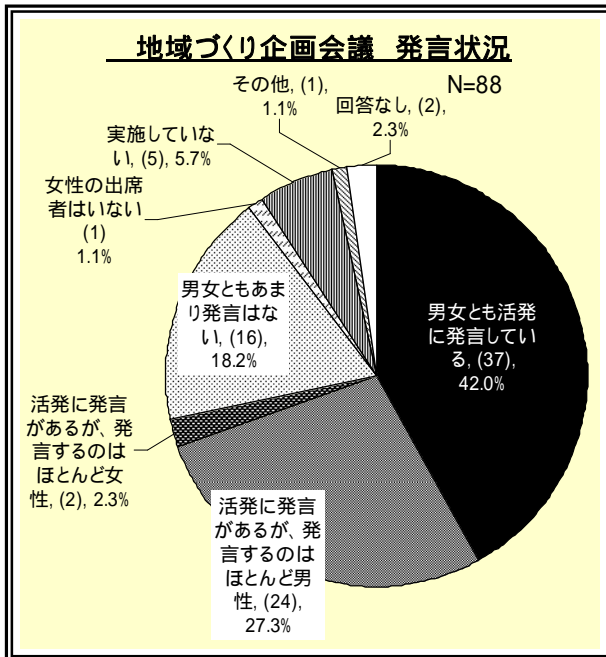
「男女ともあまり発言はない」「活発に発言があるが、発言するのはほとんど男性」がそれぞれ約2割となっています。



男女の参加状況別にみると、『男女ほぼ同じくらい』の自治振興区では、約8割が「男女とも活発に発言している」と回答しています。

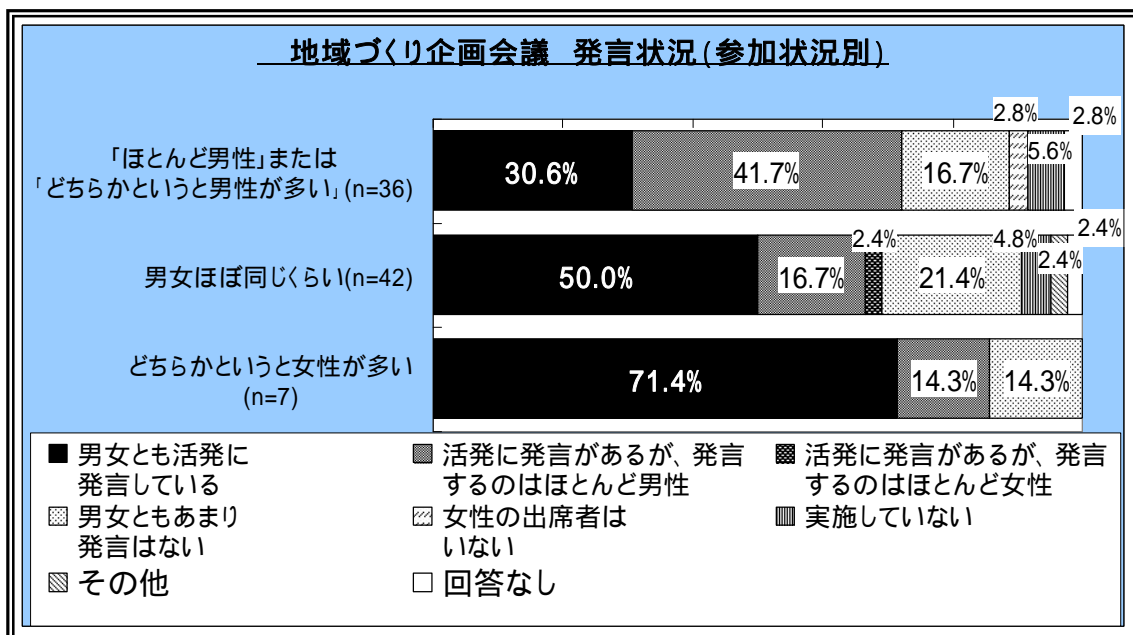
発言状況(地域づくり企画会議等)

【自治振興区アンケート】



地域づくりのための企画会議で、「男女とも活発に発言している」と回答した自治振興区が約4割でした。

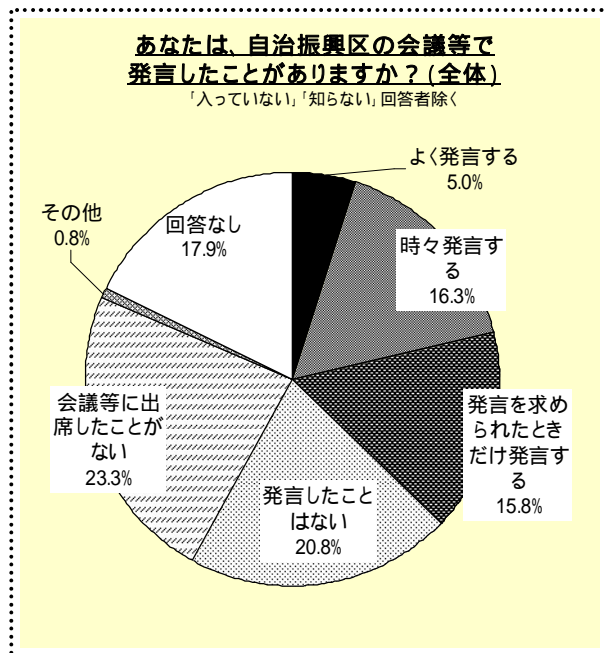
次いで、「活発に発言があるが、発言するのはほとんど男性」が約3割、「男女ともあまり発言はしない」が約2割となっています。



男女の参加状況別にみると、女性の参加が多い自治振興区のほうが、「男女とも活発に発言している」と回答した割合が高い傾向にあるようです。

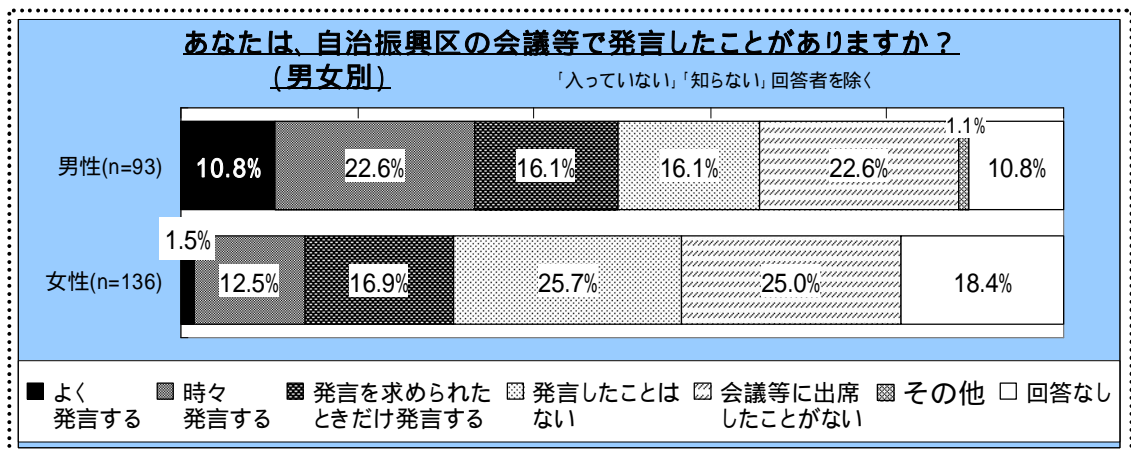
会議等での発言経験

【市民アンケート】



「よく発言する」「時々発言する」「発言を求められたときだけ発言する」をあわせると 37.1%で、会議で発言したことがあると回答したのは、約4割でした。

「会議等に出席したことがない」「発言したことはない」がそれぞれ約2割となっています。

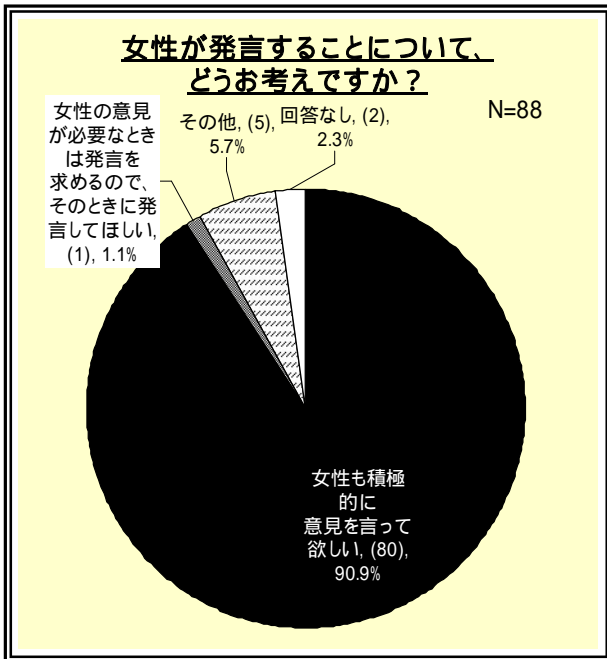


男女別でみると、男性は、「よく発言する」「時々発言する」「発言を求められたときだけ発言する」をあわせると 49.5%で、会議で発言したことがあると回答したのは約5割であるのに対し、女性は30.9%と約3割となっています。

また、「発言したことはない」と回答した人も、女性は男性より約1割高くなっています。

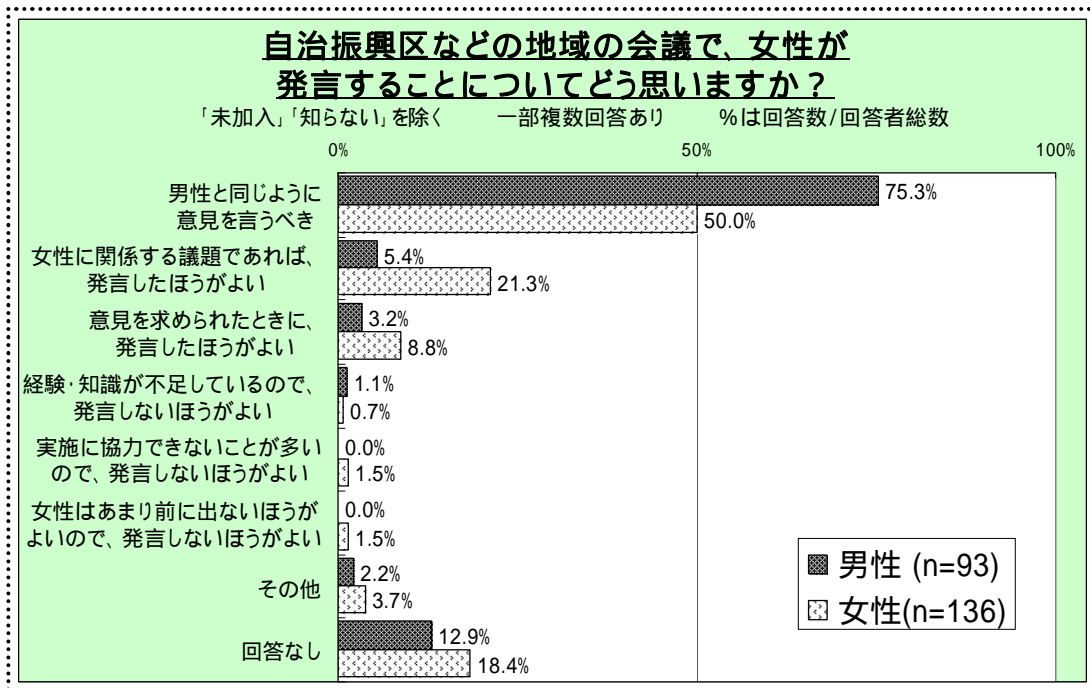
会議等での女性の発言について

【自治振興区アンケート】



自治振興区の約9割が、「女性も積極的に意見を言って欲しい」と考えています。

【市民アンケート】



男性は約8割が「女性も地域住民なのだから、男性と同じように意見を言うべき」と考えていますが、女性は5割にとどまっており、「女性に関係する議題であれば、発言したほうがよい」と考える方が約2割、「発言を求められたときに発言したほうがよい」と考える人が約1割となっています。

自治振興区の会議等では、女性の出席者の割合が高いほうが男女とも活発に発言があるものの、男性の出席者のほうが多い自治振興区でも、2～3割の自治振興区では女性も男性と同じように発言をしているようです。また、自治振興区では、女性も積極的に意見を言って欲しいと考えています。

しかし、市民アンケートでは、発言したことがある女性は3割にとどまっており、女性の半数が「発言したことがない」または「会議等に出席したことがない」と回答しています。また、「男性と同じように意見を言うべき」と考える女性は男性に比べて割合が低く、女性は、会議で発言することあまり積極的ではないようです。

女性の役員への登用について

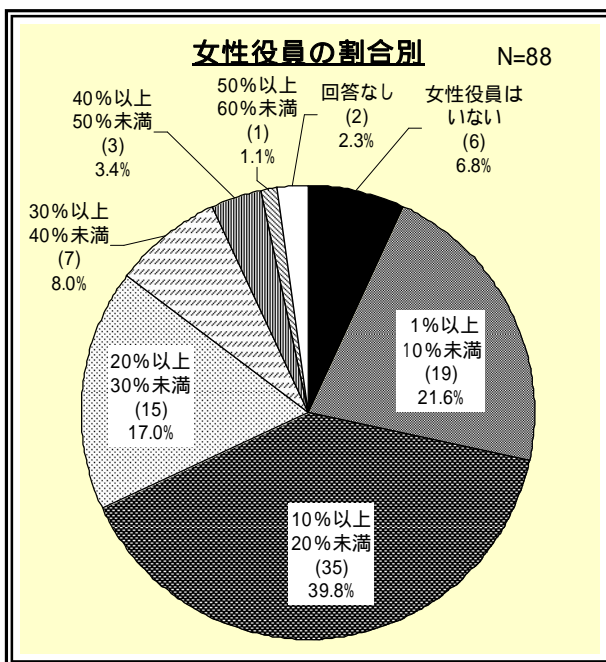
【市民アンケート】は、「自治振興区との関わり」の問いで、『4 自治振興区には加入していない』『5 自治振興区というものを知らない』と回答した方を除いて集計（N=240）

本アンケートでは、女性役員の割合「30%」をまとめの際の基準としました。

これは、国連のナイロビ将来戦略勧告で「指導的地位に就く婦人の割合を1995年までに少なくとも30%にまで増やす」とされており、「30%」は女性の登用についての国際的な目標値となっていることからです。日本においても、国の「男女共同参画基本計画（第2次）」で、『社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%程度になるよう期待』と定めており、「庄原市男女共同参画プラン」においても、前期（平成23年度末）の目標値として審議会等委員への女性の登用率を30%と定め、取組を進めています。

役員女性の割合（平成21年度の状況）

【自治振興区アンケート】

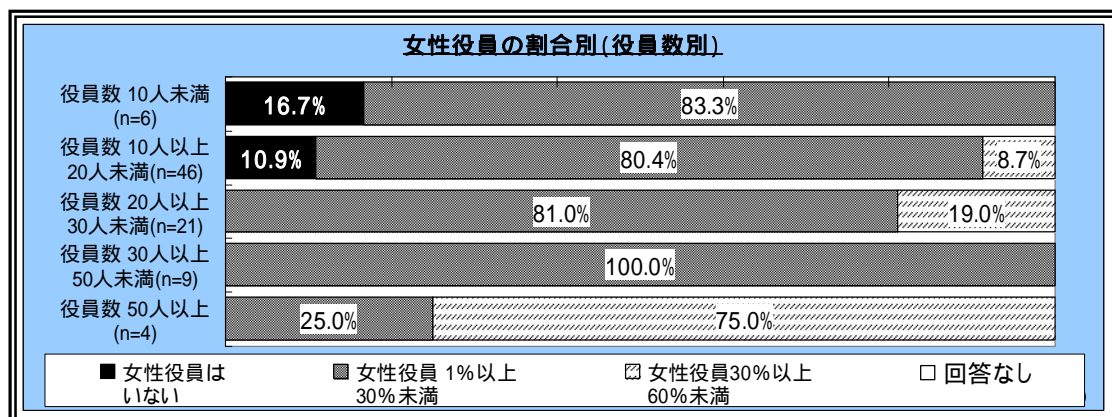


女性の役員が30%以上いる自治振興区は12.5%、30%未満の自治振興区は78.4%、女性の役員がいない自治振興区は6.8%でした。

役員数及び女性役員数の合計と女性役員の割合

役員総数(a)	1,744人
女性役員総数(b)	319人
女性役員割合(b)/(a)	18.3%
自治振興区平均	16.3%

全体の役員数別にみると、全体の役員数が多いと女性役員の割合も高い傾向にあるようです。



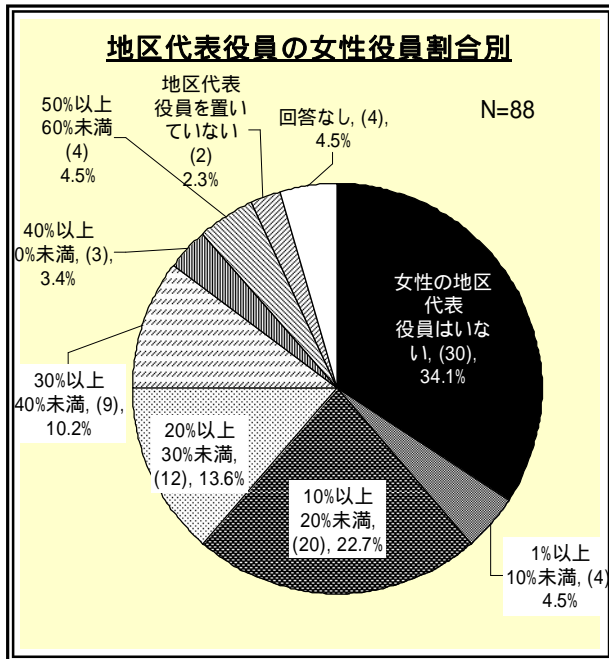
女性が就いている役職名（回答いただいた役職名に「長」「副」とないものは、「構成員」として整理）

役職名	回答数
女性部部长・女性会会长	24
専門部副部长	22
自治振興区副区长・副会长・助役	20
地区担当役員・地区代表・理事	19
専門部構成員	18
専門部部长	16
会計	8
女性部構成員	7
監査・監事	6
事務局長	3
事務局次長	3
事務局	3
公衆衛生推進委員	3
女性部副部长・女性会副会长	3

役職名	回答数
事務局職員	2
書記	2
運営委員	2
こども会・児童部構成員	2
総務部構成員	2
その他（回答が1つのみであったもの）	
顧問/総務部長/総務部副部长/一般役員/高齢者部・老人会会长/高齢者部・老人会副会长/高齢者部・老人会構成員/こども会・児童部代表/加工所責任者/クラブ会长/クラブ構成員/校長/食生活推進委員/体育協会委員/保育所長	

地区等を代表する役員の女性の割合(平成21年度の状況)

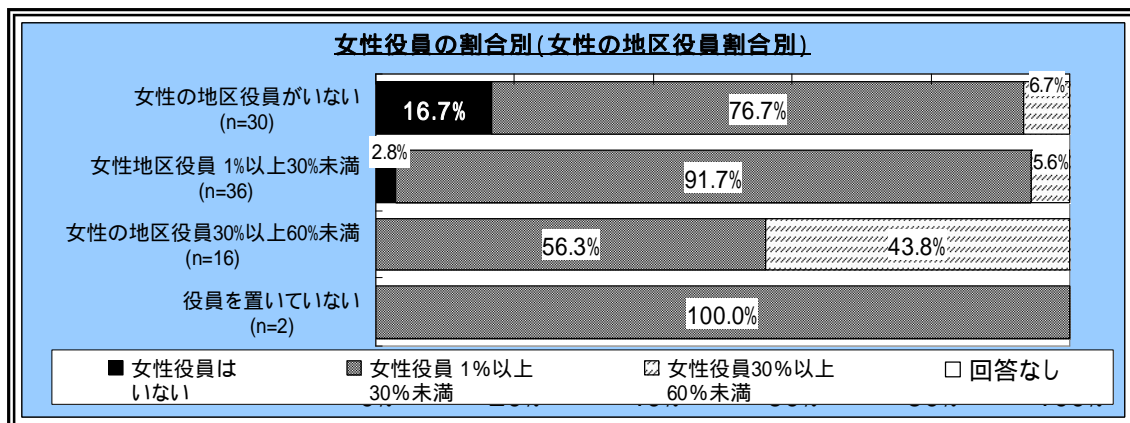
【自治振興区アンケート】



女性の地区代表役員が30%以上いる自治振興区は18.1%、30%未満の自治振興区は40.8%、女性の役員がない自治振興区は34.1%でした。

地区等を代表する役員数及び女性役員数の合計と女性役員の割合

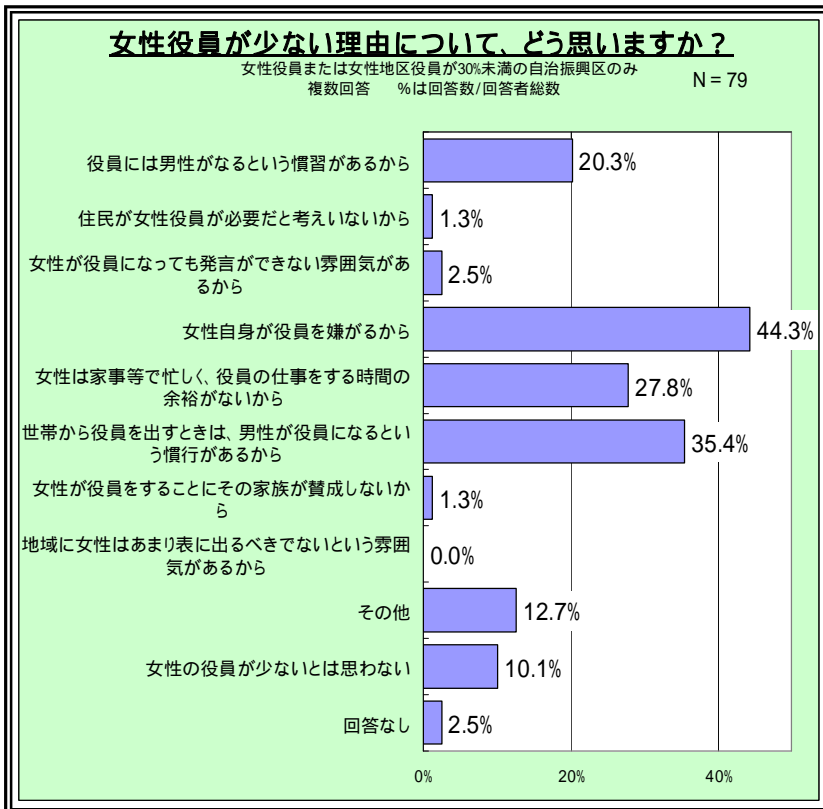
地区代表役員総数	1,261 人
女性役員総数	230 人
女性役員割合	18.2 %
自治振興区平均	15.1 %



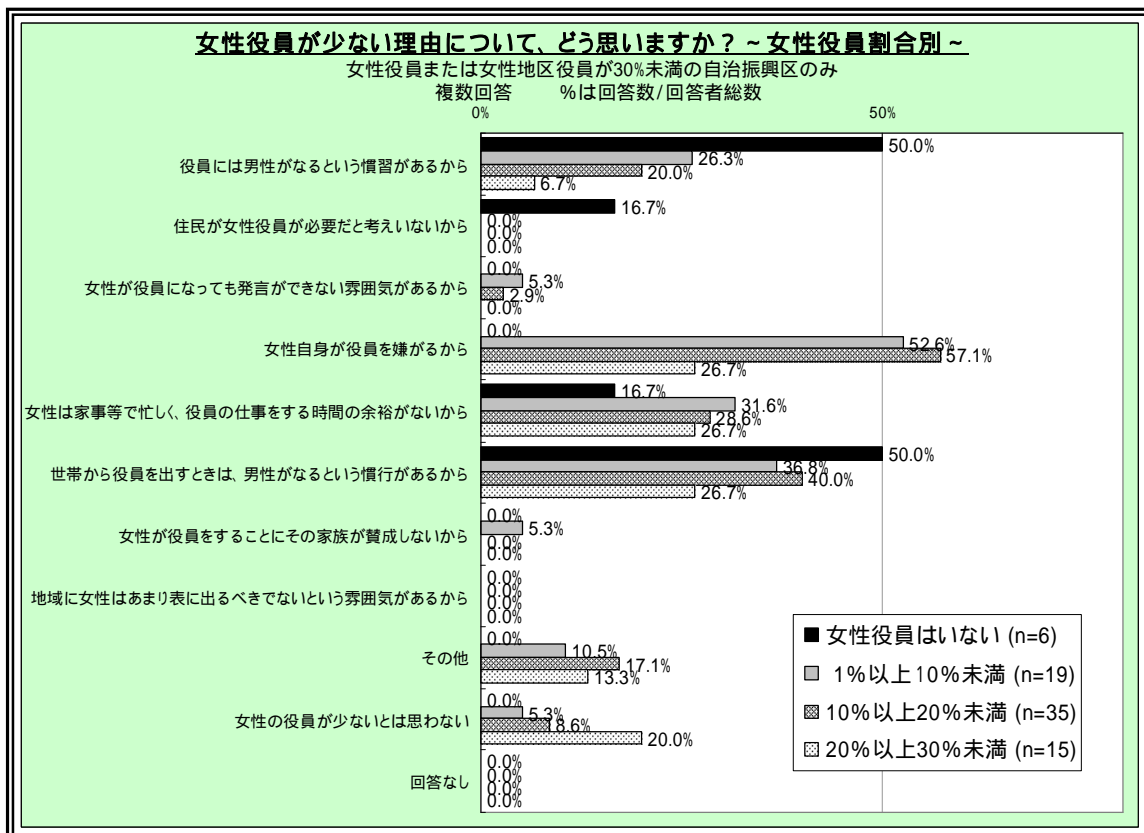
女性の地区役員が少ない自治振興区では、役員会の女性役員も少ないようです。

女性の役員が少ない理由

【自治振興区アンケート】 女性役員または女性地区役員が30%未満の自治振興区 (n=79)



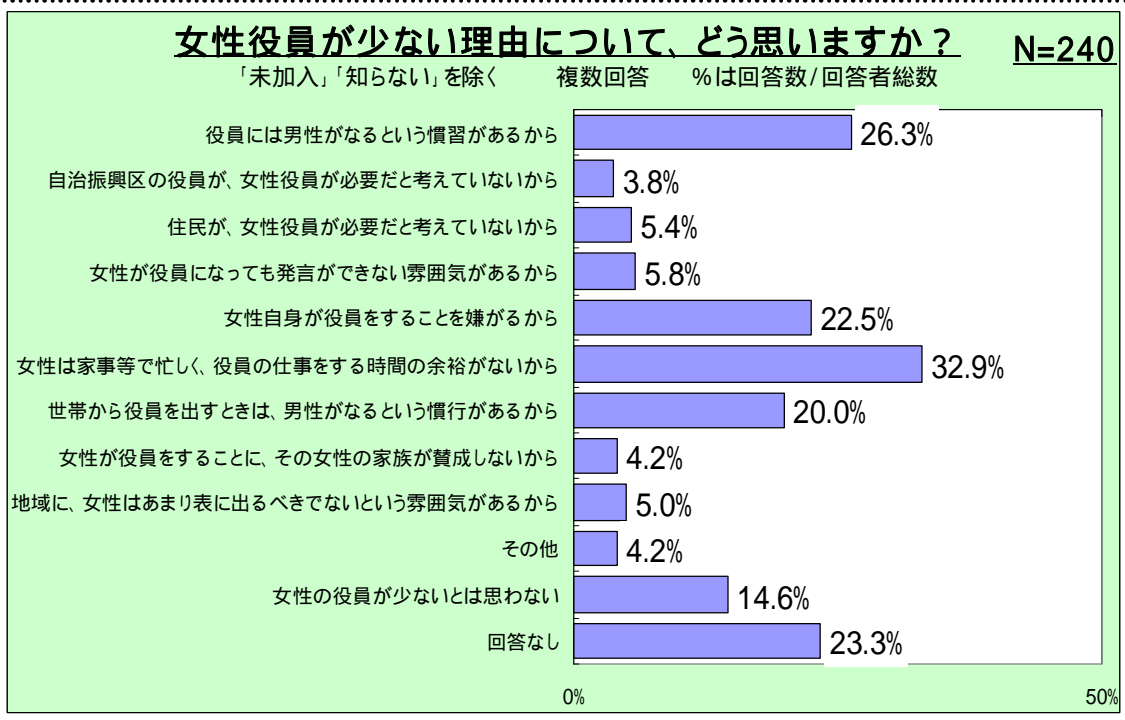
女性の役員が少ない理由として最も多かったのは、「女性自身が役員を嫌がるから」で44.3%でした。次いで「世帯から役員を出すときは、男性が役員になるとい習慣があるから」が35.4%、「女性は家事等で忙しく、役員の仕事をする時間の余裕がないから」が27.8%でした。



女性役員の割合別にみても、『女性役員はいない』自治振興区では、「役員には男性がなるとい習慣があるから」「世帯から役員を出すときは男性がなるとい習慣があるから」が、ともに50.0%となっています。

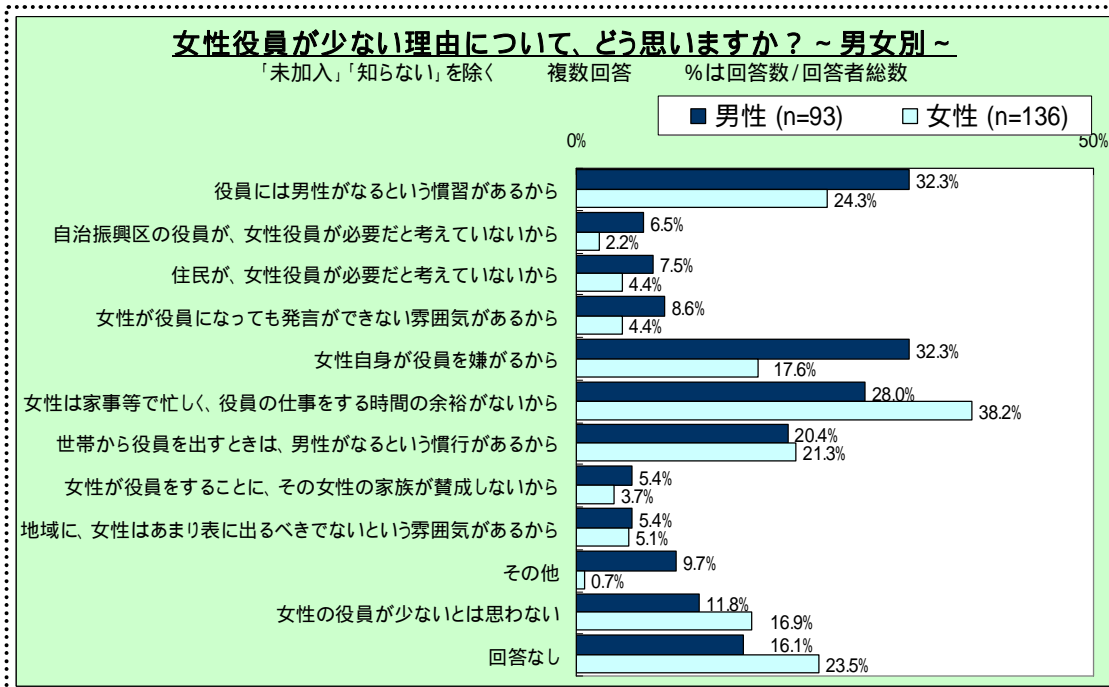
女性役員が『1%以上10%未満』『10%以上20%未満』の自治振興区では、「女性自身が役員を嫌がるから」が、ともに50%を超えています。

【市民アンケート】



女性の役員が少ない理由について、市民アンケートでは、「女性は家事等で忙しく、役員の仕事をやる時間の余裕がないから」が最も多く、32.9%でした。

次いで「役員には男性になるという慣習があるから」が26.3%、「女性自身が役員をすることを嫌がるから」が22.5%でした。

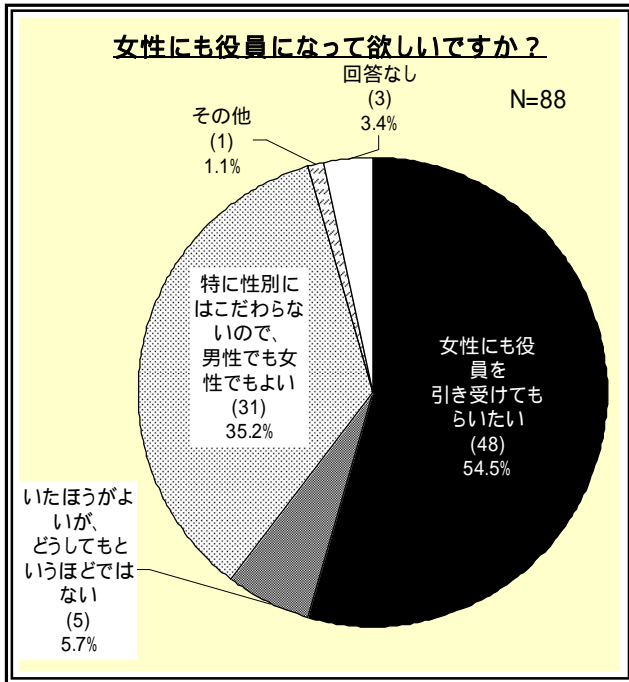


男女別では、男性は、「役員には男性になるという慣習があるから」「女性自身が役員を嫌がるから」がともに32.3%でしたが、女性はそれぞれ24.3%、17.6%と男性に比べて、回答した人の割合が低いようです。

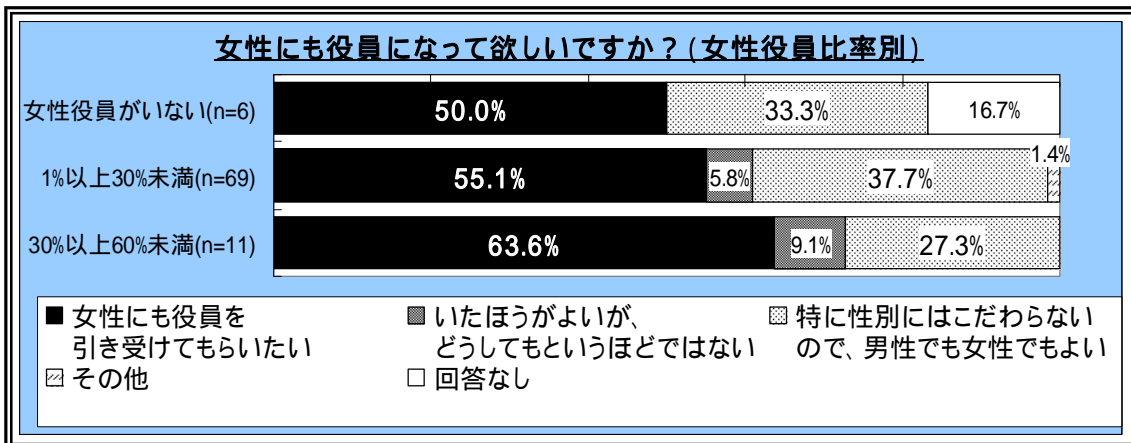
女性の回答で最も多かったのは、「女性は家事等で忙しく、役員の仕事をやる時間の余裕がないから」という理由で38.2%でした。

自治振興区には女性の役員が必要だと思うか

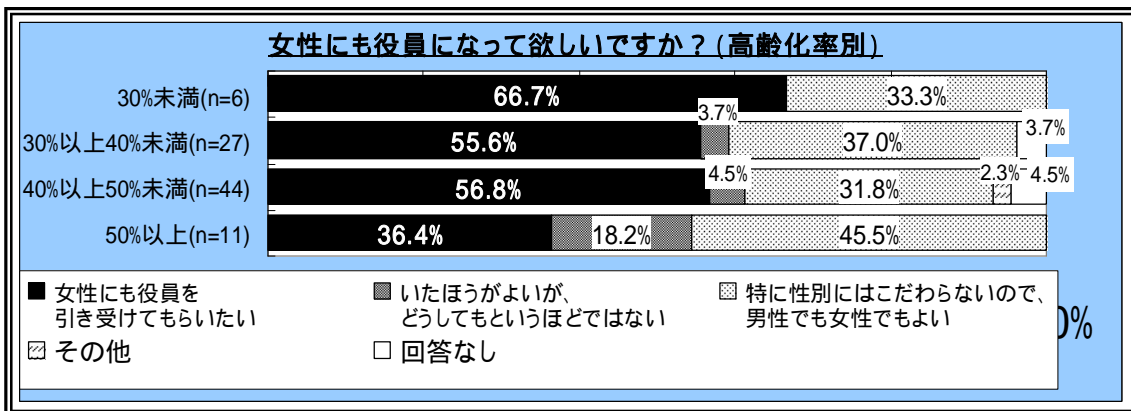
【自治振興区アンケート】 女性役員または女性地区役員が30%未満の自治振興区 (n=79)



「女性にも役員を引き受けてもらいたい」と考えている自治振興区が半数、「特に性別にはこだわらないので、男性でも女性でもよい」と考えている自治振興区が約 1 / 3 の割合でした。

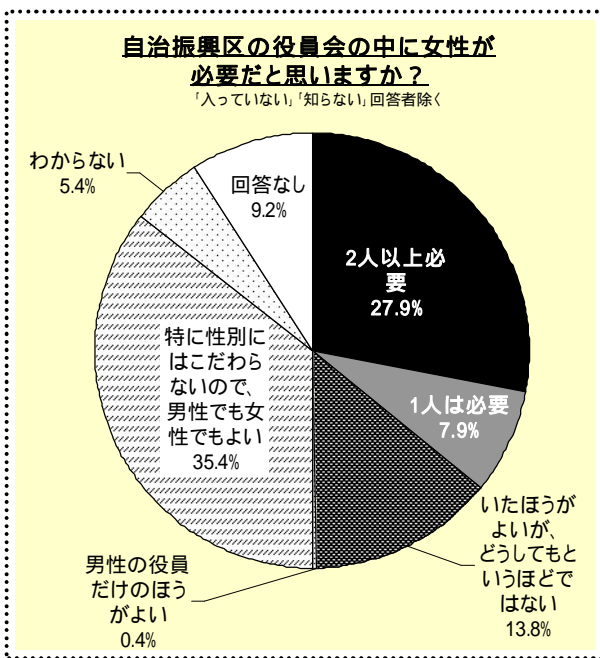


女性役員の比率別で見ると、どの区分でも「女性にも役員を引き受けてもらいたい」と考える自治振興区が半数を超えています。女性役員の割合が高い自治振興区のほうがその割合がやや高いようです。



高齢化率で見ると、高齢化率『50%以上』の自治振興区では「特に性別にはこだわらないので、男性でも女性でもよい」の割合が最も高くなっていますが、高齢化率『30%未満』の自治振興区では、「女性にも役員を引き受けてもらいたい」という回答が約7割となっています。

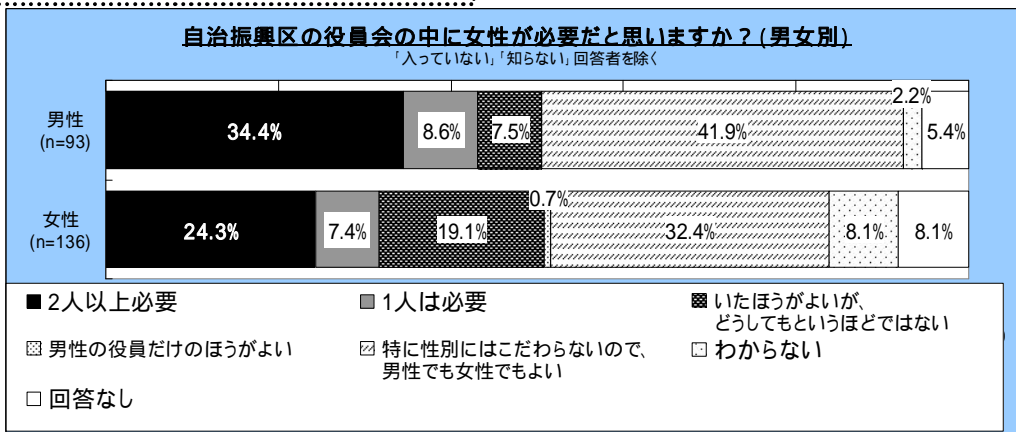
【市民アンケート】



女性役員が「2人以上必要」と「1人は必要」とあわせて、『女性役員が必要』と考える人が約 35.8%、「特にこだわらないので、男性でも女性でもよい」と考える人が 35.4%で、ほぼ同じくらいの割合でした。「いたほうがよいが、どうしてもというほどではない」と回答した人は、13.8%でした。

男女別では、「2人以上必要」と「1人は必要」とあわせた『女性役員が必要』と考える人の割合は、男性のほうが高く、また「特に性別にはこだわらないので男性でも女性でもよい」と考える人の割合も、男性のほうが高いようです。

女性は、男性に比べて「いたほうがよいが、どうしてもというほどではない」という人の割合が高くなっています。



「2人以上必要」または「1人は必要」理由

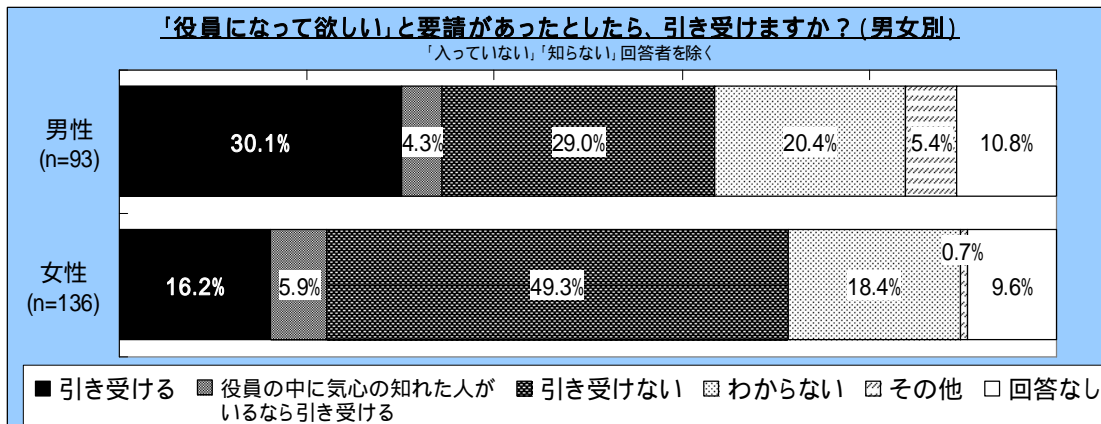
「*****(*件)」とあるのは、回答(自由記載)の主旨を女性児童課で振り分けたもの
 男性が気づかない女性の視点からの意見も必要 (男性 12 件 女性 9 件)
 一人では、出席・発言がしにくい 「2人以上必要」(男性 3 件 女性 4 件)
 女性同士でお互い協力できる 「2人以上必要」(女性 4 件 性別無回答 1 件)
 女性もいたほうがよい (女性 3 件)
 その他 (男性 11 件 女性 6 件)

「特に性別にはこだわらないので、男性でも女性でもよい」理由

「*****(*件)」とあるのは、回答(自由記載)の主旨を女性児童課で振り分けたもの
 適任者がすればよい (男性 5 件 女性 6 件)
 性別にこだわる必要はない (男性 4 件 女性 3 件)
 男女平等だから (男性 2 件 女性 1 件 性別無回答 2 件)
 やる気のある人がすればよい (男性 3 件 女性 2 件)
 すでにできているから (男性 1 件 女性 1 件)
 その他 (男性 5 件 女性 4 件)

自治振興区の役員を引き受けるか

【市民アンケート】



男性は、3割が「引き受ける」と回答しているのに対し、女性は約2割にとどまっています。また、「引き受けない」という回答は、男性が3割に対し、女性は約5割となっています。

「引き受ける」理由

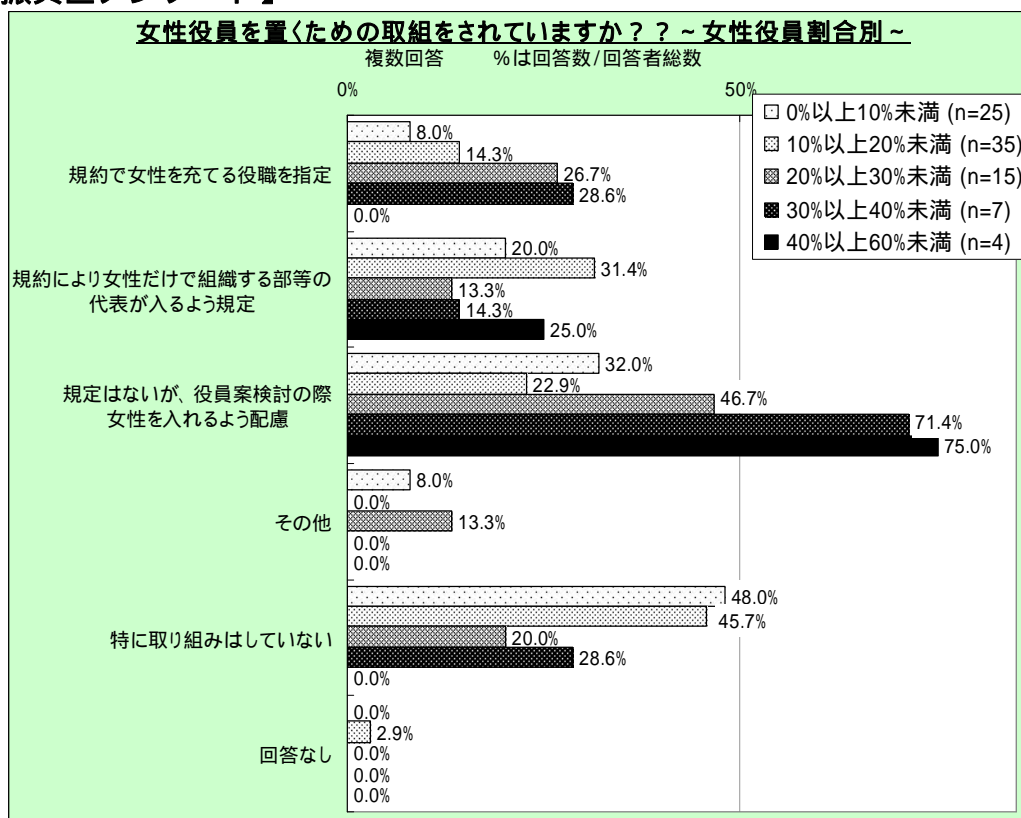
- 「*****(*件)」とあるのは、回答(自由記載)の主旨を女性児童課で振り分けたもの
- 地域のために(男性6件 女性1件)
- お互いさまだから(男性4件 女性2件)
- 当然のことだから(男性2件 女性1件 性別無回答1件)
- 地域のことや人を知ることができるから(男性3件 女性1件)
- 役員に男女は関係ないから(女性4件)
- 意見を言いたいから(女性2件)

「引き受けない」理由

- 「*****(*件)」とあるのは、回答(自由記載)の主旨を女性児童課で振り分けたもの
- 年齢(高齢) 健康面で難しい(男性14件 女性33件 性別無回答1件)
- 自信がない(女性4件 性別無回答1件)
- 時間がない(男性2件 女性2件)
- 地域の協力が無い(男性1件 女性1件)
- 交通手段がない(女性2件)
- その他(男性8件 女性2件)

女性役員登用のための取組

【自治振興区アンケート】



女性役員を置くための取組については、女性役員の割合が高い自治振興区のほうが、「役員案検討の際女性を入れるよう配慮している」また「規約で女性を充てる役職を指定している」という回答が多いようです。

逆に、女性役員の割合が低い自治振興区では「特に取り組みはしていない」と回答する自治振興区が多いようです。

【市民アンケート】

あなたは、自治振興区の役員に女性役員を増やすために、自治振興区はどのような取組をしたらよいとお考えですか？また、地域、女性の家族、女性自身はどうしたらよいとお考えですか？

「*****(*件)」とあるのは、回答(自由記載)の主旨を女性児童課で振り分けたもの

「自治振興区」

- 参加しやすいよう、会議や行事の日程等を見直す(12件)
- 女性役員の人数・割合を決める(7件)
- 総会等の会議や行事へ、女性の参加を促す(6件)
- 自治振興区の活動がもっと身近になるよう、わかりやすく広報する(5件)
- 女性組織の育成等、女性の活動の場を増やす(6件)
- 地域のみんで、しっかり意見を交わす(4件)
- 世代交代(3件)
- 女性に役員になるよう勧める(3件)
- 女性役員の必要性を周知(2件)
- 女性役員をサポートする(2件)
- わからない(7件)
- その他(24件)

「地域」

地域のみんでしっかり意見を交わす（11件）
会議や行事へ女性の参加を促す（9件）
お互い協力しあう（9件）
女性に役員になるよう勧める（6件）
女性役員をサポートする（6件）
女性役員の必要性を周知（3件）
男女平等を進める（3件）
女性役員の人数・割合を決める（2件）
わからない（2件）
その他（15件）

「女性の家族」

家族が協力・応援する（26件）
女性も役員になる必要があることを家族が理解する（13件）
家事の分担（4件）
家族が行事に参加する（3件）
女性も社会に目を向ける（3件）
家族からも役員になるよう勧める（2件）
その他（6件）

「女性自身」

積極的に会議や行事に参加する（26件）
自分にできることを進んでがんばってみる（17件）
役員になる勇気を出す（5件）
役員の中に女性が必要だと認識する（3件）
責任をもって活動する（3件）
地域の人との関係を密にする（3件）
自信をもつ（2件）
社会に関わっていく（2件）
わからない（2件）
その他（6件）

自治振興区活動に、「男性だけでは気づきにくい女性の視点からの意見が必要だ」として、女性にも役員を引き受けてもらいたいと考える自治振興区が多いようです。

しかし、実際には女性役員の割合が30%未満となっている自治振興区が約8割、地区役員についても、女性の地区役員がいない、または30%未満である自治振興区が7割となっており、自治振興区の意味決定の場に女性が少ない実態があり、意識と現実には差があるようです。

その差の原因として、女性自身が「引き受けたくない」「自信がない」と考えている人が多いなど消極的であること、世帯や地域の代表を男性とする慣行や女性の家事等の負担が大きいことが考えられます。

また、自治振興区、市民とも、「特に役員の性別にはこだわらないので、男性でも女性でもよい」という回答がともに約1/3を占めており、性別にこだわらず適任者になるのが一番よいと考える人が多いようですが、女性役員を置くよう取組をしていない自治振興区では、女性の役員の割合が少ないことから、役員の中に自然に女性もいるという状況になるまでは、何らかの取組が必要であると考えられます。

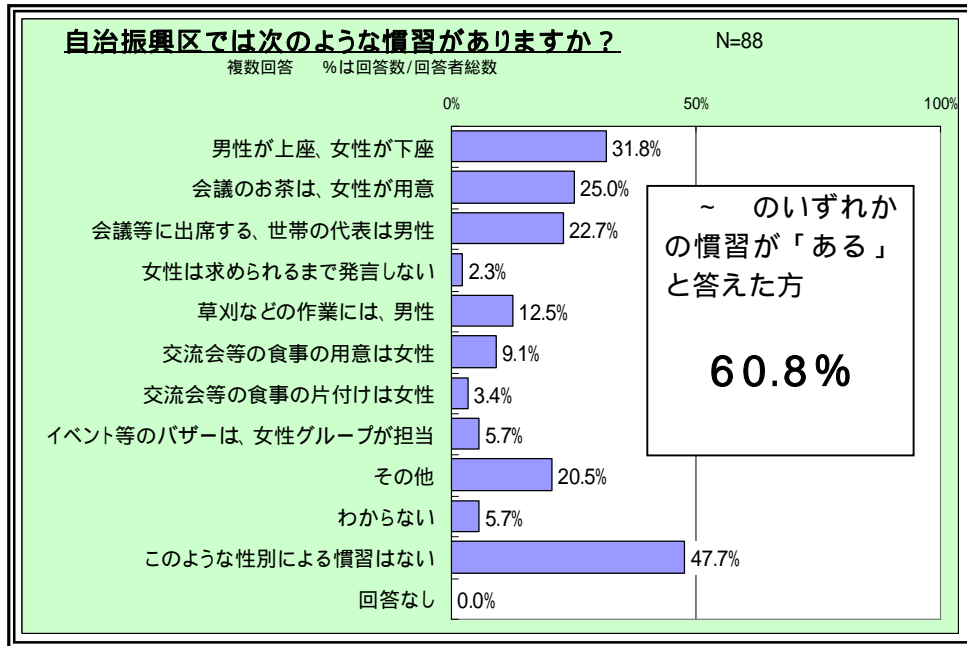
性別による慣習(固定的や役割分担)について

【市民アンケート】は、「自治振興区との関わり」の問いで、『4 自治振興区には加入していない』『5 自治振興区というものを知らない』と回答した方を除いて集計 (N=240)

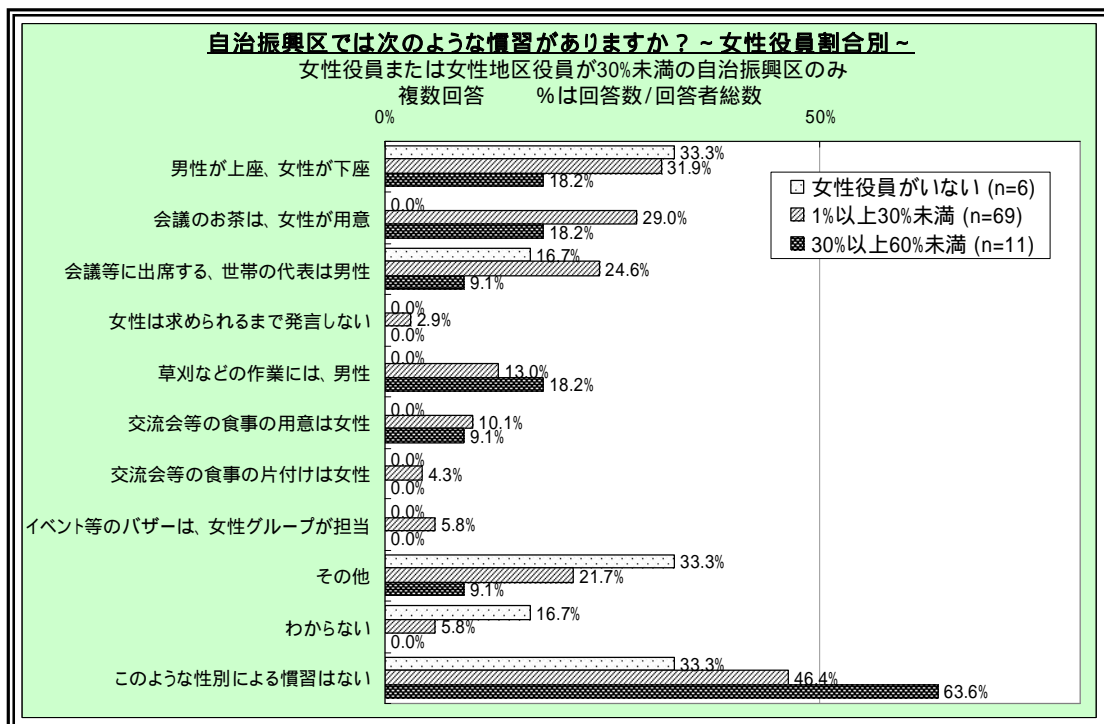
慣習の有無

【自治振興区アンケート】

この設問は複数回答としており、「このような性別による慣習はない」とあわせて ~ のいずれかに「ある」と回答いただいている場合も、そのまま集計しています。

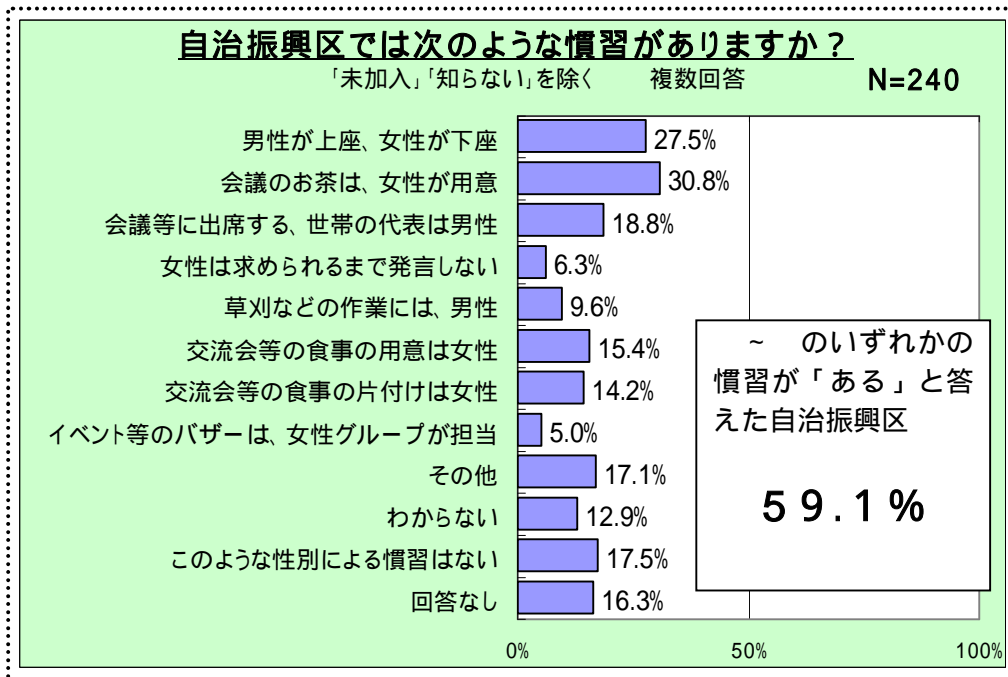


何らかの慣習が「ある」と回答した自治振興区は、59.1%でした。回答が多かったのは、「会議や宴席では、男性が上座、女性が下座」が31.8%、次いで「会議のお茶は女性の役員または女性の出席者が用意する」が25.0%、「会員対象の会議等には、世帯の代表として男性が出席する」が22.7%でした。

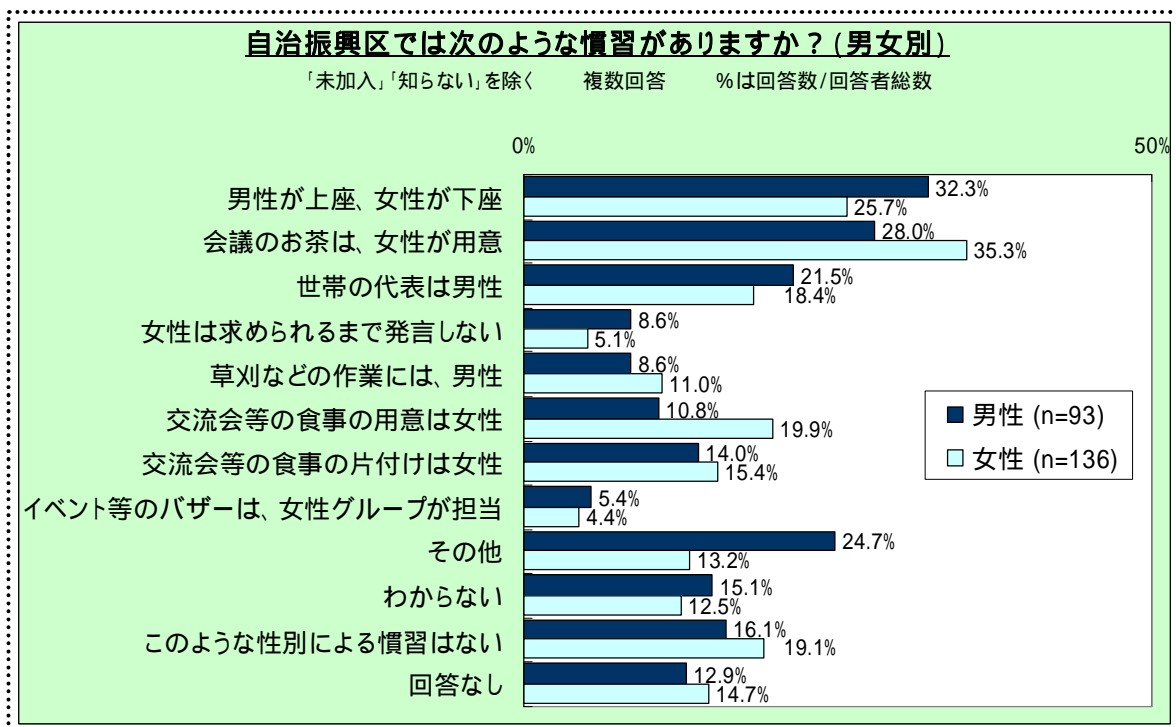


女性役員の割合別にみると、女性役員の割合が高い自治振興区のほうが「このような性別による慣習はない」と回答した自治振興区が多いようです。

【市民アンケート】



何らかの慣習が「ある」と回答した自治振興区は、60.8%でした。回答が多かったのは、「会議のお茶は女性の役員または女性の出席者が用意する」が30.8%、次いで「会議や宴席では、男性が上座、女性が下座」が27.5%、「会員対象の会議等には、世帯の代表として男性が出席する」が18.8%でした。

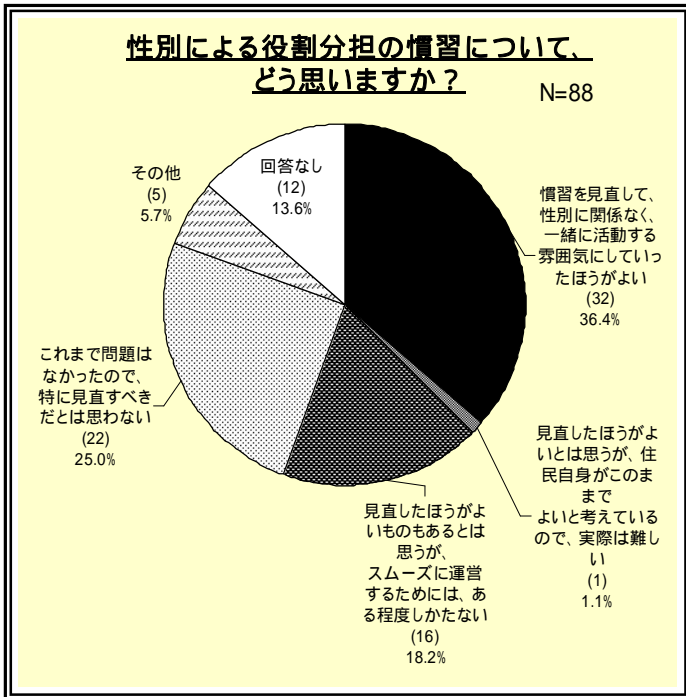


男女別でみると、男性は「会議や宴席では、男性が上座、女性が下座に座る」が32.3%で最も多く、次いで、「会議のお茶は女性の役員または女性の出席者が用意する」が28.0%、「会議等に世帯の代表として出席するときは男性が出席」が21.5%の順で多くなっています。

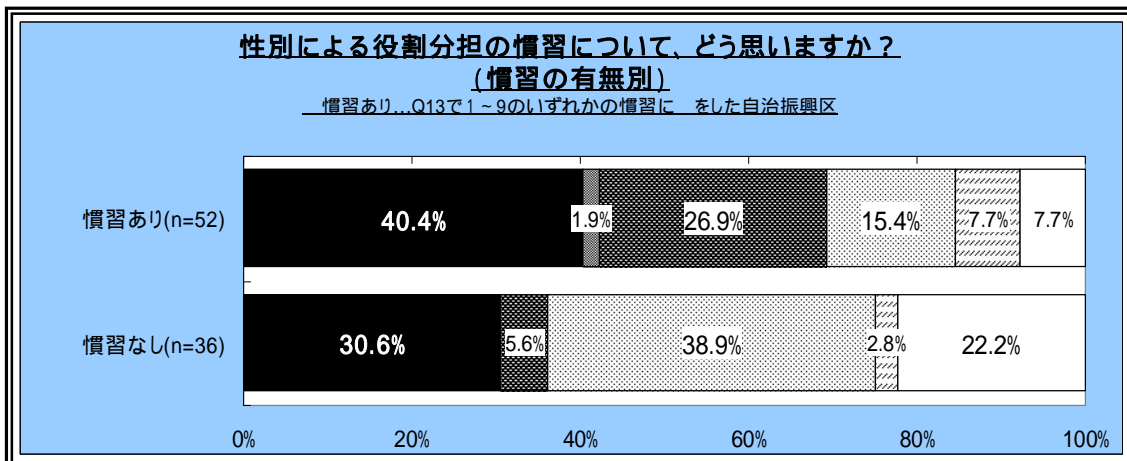
女性は「会議のお茶は女性の役員または女性の出席者が用意する」が35.3%で最も多く、次いで「会議や宴席では、男性が上座、女性が下座に座る」が25.7%、「交流会等の食事の用意は女性が担当することになっている」が19.9%の順で多くなっています。

慣習の見直しについて

【自治振興区アンケート】

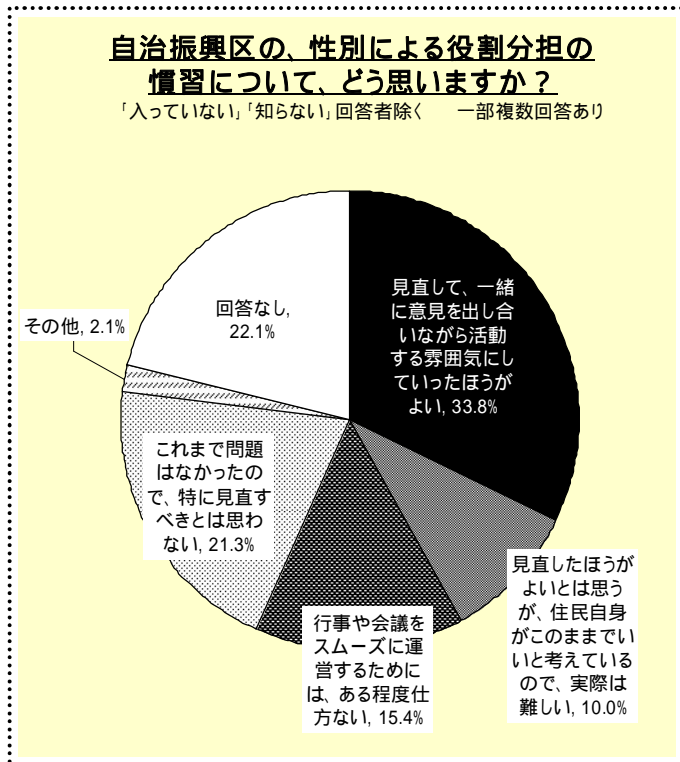


性別による役割分担の慣習について、「慣習を見直して、性別に関係なく一緒に活動する雰囲気になっていったほうがよい」と回答した自治振興区は約4割でした。「これまで問題はなかったから見直すべきだとは思わない」という自治振興区は25.0%、「スムーズに運営するためにはある程度しかたない」という自治振興区は約2割となっています。



慣習の有無別にみると、「いずれかの慣習がある」と回答した自治振興区のうち、4割は「慣習を見直したほうがよい」と回答していますが、「スムーズな運営のためには、ある程度しかたない」と回答する自治振興区も、約3割あります。

【市民アンケート】



市民アンケートでは、「慣習を見直して、性別に関係なく一緒に活動する雰囲気にしていったほうがよい」と回答した人は約3割でした。

「これまで問題はなかったのを見直すべきだとは思わない」という人は約2割、「スムーズに運営するためにはある程度しかたない」という人は約15%、「見直したほうがよいと思うが、住民自身がこのままでよいと考えているので実際は難しい」という人が1割となっています。

自治振興区に何らかの「性別による固定的な役割分担の慣習がある」との回答は、自治振興区、市民ともに、約6割の割合となっています。

自治振興区では、女性役員の割合が高いほど「そのような慣習はない」との回答が多いものの、個々の慣習にはバラツキがあり、自治振興区によって異なるようです。

慣習の見直しについては、積極的に「見直すほうがよい」との回答は、自治振興区で約4割、市民で3割ですが、「問題はなかったのを見直すべきとは思わない」「スムーズな運営のためにはある程度仕方ない」という回答をあわせると、自治振興区、市民とも「見直すほうがよい」という回答よりも割合が高くなっています。

女性の活動事例

【自治振興区アンケート】

(回答いただいた自治振興区のみ掲載しています)

地域	自治振興区名	女性活動事例
庄原地域	庄原自治振興区	自治振興区行事(作品展)・・・年間を通じて、サークル活動や教室で学んだことを発表する場である作品展に、多くの女性が参加し、活発に取り組みが進められている。
		女性部(庄原地区女性会本部支部)・・・年間を通じて、地域女性活動との連携及び自主活動の取組みを図っている。
		地域サロン活動・・・自治会を中心に進められている地域サロン活動には、女性が中心となり大きな役割を果たしている。
	高自治振興区	生涯学習活動団体においては女性のグループが多く、男性グループより活動が活発であり、高地域の活性化につながっている。
	本村自治振興区	生涯学習活動
		ボランティア活動
		デイホーム活動
	峰田自治振興区	団体サークル、教室などの活動(研修・発表)
		ふれあい給食、デーホームボランティア活動
		なつまつり、ふるさとまつりのバザーなどの出店
	敷信自治振興区	当自治振興区は、副区長、事務局長が女性であり、男性と対等に自治振興区活動を推進している。
	東自治振興区	東地区ふれあい祭
		東地区敬老会
		東地区ふれあい盆おどり大会
「あなたが楽しむ!まちづくり」おばちゃんの底力」講座を2月21日に開催。65名程度参加。女性部が開催。		
山内自治振興区	ふれあい給食ボランティア	
	敬老会の老人の接待	
	ふる里祭りなどの女性会の催し	
	甲山城祭りなどのバザー	
北自治振興区	女性部 ・とうふ、こんにやく試作加工配布	
	社会福祉部委員として高齢者デーホーム事業のスタッフ	
	ふれあい給食	
西城地域	五町自治振興区	私共の会は、旧常会単位を重じており、自治振興区としては、全体事業として各部の担当として、教育文化部は子供会の育成には女性、コミュニケーション行事(グランドゴルフ等)の企画運営は男女共同、高齢者福祉部は年3回以上のミニデーサービスは女性が主体(企画運営)、環境部会は男性女性共に参加
	五日市公盛会振興区	夏祭りの出し物、展示
	グリーンピア大佐村	大佐村の加工部があるが、色々な食品の加工をして広く販売している。相当長い期間、20年以上前から行っている。
		生花同好会があるが、約26年前から生花教室を開いて、現在も17名位の会員がおられます。月一回続けている。
	栗自治振興区	福祉課には、ふれあいの里という老人が集う会があるが、年5回集っているが、すでに10年をすぎ52回を終りました。スタッフの皆様女性が9割以上です。
	敬老会の中で、大正琴と銭バイの女性グループに出演、参加してもらっている	

	大戸自治振興区	洋式テーブルマナー 救急教室（人口呼吸・心臓マッサージ・AED） 学校（休校）の花壇の手入、球根などの植付 紫陽園、学校の草刈作業及び校舎の掃除 老人クラブと合同で料理講習、歌声広場、3B 体操、等参加
	比婆山自治振興区	地域の有志（女性 3～4 人）が発起人となり、30m×2mの花壇の 2 つを年間管理し、花を植え地域の美化につとめている
	神話の里熊野地区むらづくり推進協議会	私達の振興区は全戸で 40 戸あまりの小さな団体です。どんな行事をするにも男だけ、女だけと言っているは成り立ちません。すべて男女を問わず運営、参加しています。ほとんどの活動で頑張っておられます。
	今柳会	ふるさと便づくり（ブランド振興部） 「地域の産品を知り合いの方に届ける」ため、米やイモ類の生産、乾燥品（くさぎな、ハブ茶、干たけのこ、干大根等）作り、これの荷造り発送を男、女性共同で行う活動をしています。 交遊会（グランドゴルフ）、ほたる見会 男、女性共に和気藹々とグランドゴルフに興じ、6月のほたる見会は、子どもたちを中心に「ほたる散策」をし、子どもから元気をもらっています。
	八銚落合自治振興区	組織に女性部を設けている（青年部・老人部もある） 独自の活動としては、生花教室の開催等がある。 他では、高齢者世帯、独居世帯への訪問活動や地域敬老会へ定期的にプレゼントを作成、交付。
	高尾地区自治振興区	夏祭りバザー（男女が共同して行っている） とんどまつりバザー とうもろこし、エゴマづくり 女性会（おしゃべり会等の活動）
	油木自治振興区	休校となった小学校の環境整備活動について、校舎内の清掃等へ積極的な参加をいただいている。 地区運動会へ観戦者として、多くの女性の参加をいただいている。同様に敬老会等への参加も女性が多い。（送迎用のマイクロバスの運行も関係しているかも？） 高齢者の健康維持、増進、介護予防のため開催しているサロン事業のスタッフとして積極的に参加。
	東城地域	小奴可自治振興区
	小串自治振興区	文化部において、部長が女性であり部長中心に踊りの会を結成しており、定期的に練習を行い機会あれば地域において練習の成果を披露している。
	内堀自治振興区	毎年の行事である「たたらの里内堀やよい祭」文化祭で、文化振興部の女性が主体となり、ステージ発表等の計画を毎年すばらしい出し物を考えている。
	八幡自治振興区	ひまわりの会（花畑委員会）女性グループ中心 作業時は男性も手伝う 高齢者支援精度 班長は女性 男性も班員にいる
	粟田東自治振興区	文化事業の主体は女性（生花教室）
	粟田北区自治振興区	健康講座、救急講座等は男性の参加が少ない。参加者を増やしたい。 今年より女性部の有志で味噌作りを始めた。 生花教室も月 1 回開催されている。
	下町自治振興区	健康料理教室（生活習慣病の予防） ゲートボール、グランドゴルフ等の体力の向上、健康の増進
	戸宇自治振興区	女性会・JA 女性部あり 地元産大豆使用（戸宇特産品製販組合）料理講習（全会員）

		夏祭り 女性会出店
		里祭り、敬老会 他種目出演
		ほのぼの会(独りぐらし高齢者交流支援)
川西下自治振興区		老人クラブでは、縫物の技術を生かした活動など積極的にされている。若干女性は少ない。
川西上自治振興区		親睦行事の運営、企画、準備等については、女性を中心に活動し、男性に協力を求めている
川東自治振興区		女性部は、「寄りましようや」(今年：絵手紙)、「行きましようや」(今年：みかん狩り)、「食べましようや」(今年：蕎麦を食べる)を、全戸に呼びかけて実施している。男性も参加している。
		「敬老会」「とんど」などの行事は、毎年女性部に協力してもらっている
福代自治振興区		一年間の花壇の手入れ(整備、草取り、季節の花植、水やり)
		男性、女性関係なく、参加できる企画をしている(菓子づくり、簡単な運動etc)
東町自治振興区		文化部主催の100円サロンは、年6~7回行っています。参加者は平均30~35名程度ですが、ほとんど女性の方です。また、参加者が増えています。
宮平団地自治振興区		しめ縄づくり
帝釈自治振興区		イベント(もみじ祭り)の司会を、女性にお願いしたが、大成功
		各イベントでのバザー参画
		女性部会の中で、各種行事の企画運営
三坂郷自治振興区		舞踊教室、銭太鼓、グラウンドゴルフ
新免自治振興区		大正琴
		銭太鼓
		グラウンドゴルフ
郷原自治振興区		ヨガ教室に取り組んでおられます。
久代東自治振興区		当振興区の女性、高齢者以外は就職のため、家事もあり、大変な中、行事等の時は参加して頑張ってくれます。また、高齢の方も、小学校跡グラウンドの草取り、花壇等、お陰で助かることも多いです。
久代中自治振興区		振興区が事業主体となって収益事業(農産品加工販売)を立ち上げるよう準備をすすめているが、女性で研究グループを立ち上げ、事業に参画しようとしている。
口和地域	湯木釜峰振興会	・地域グループ活動いろり屋 ・環境福祉活動 ・女性部活動 地域でのバザー イベント ・文化芸術活動 ・敬老会 ・ゴミ分別 ・食用廃油回収 ・ゴミの不法投棄防止活動
	宮内自治振興区	生活福祉部の中に地域福祉委員を設けている。その委員として女性が多い。
	向泉自治振興会	各事業における取り組みの中で、各役割分担にて積極的に活動が進められている。活動における分担で、女性のみでの取り組みは無いと言ってもいい。全て協働で実施。
	大月自治振興区	おどりサークル
	竹地谷自治振興会	現在、女性部では毎月一回(2ヶ月の時もあり)「サロン」という名称で行事を開催しております。今年度は10回開催し、参加人数は毎回10名~15名でした。
	本谷自治振興区	環境整備事業、市道草刈などで出席者の半数の人が女で協力してもらっている。春秋の美クリーン運動など多くの女の人が協力してくれる。分別も女の人がしてもらおう。 新年のトンド祭も、反省会は女の人が中心でしてくれる。
高野地域	上湯川自治振興区	区で進めている花いっぱい運動など女性の参加が多く活発に行事を行っています。
	下湯川自治振興区	花いっぱい。草刈等にも女性も参加して頑張ってください。

	南自治振興区	食生活推進
		女性会（寺の供養）
		サロン
	和南原自治振興区	私の地区では、月1回第4土曜日に女性会員を中心としたサロンを行い頑張っています。
	岡大内自治振興区	自治振興区の行事、文化、研修視察など女性の参加率が非常に高い。
		男性が都合が悪ければ女性、女性が都合が悪ければ男性というように参加していると思う。
下門田自治振興区	女性だけのグループが2グループあり、女性の感性を生かしたアイデアが生かされている。（アップルミセス・・・加工品のデザイン等、実際に購入する主婦の立場で企画され、販売力に大きなウェートを示している）	
高暮自治振興区	農産物の加工・販売について女性が主導で活動している。	
上里原自治振興区	お祭りのときのバザー、七夕祭りでの豚汁等は、女性がほとんど参加して、おいしいものを作っている	
比和地域	比和自治振興区	特にありません
	森脇地域自治振興区	永原かわせみクラブ、山王サロン、サルビア会等敬老会の支援活動
		越原みこと会の都市との交流事業
三河内地域振興会	地域づくりは男女を問わず、共同企画によらなければ成功しないので、特別なものはありません。	
総領地域	黒目自治振興区	料理教室による交流事業
	亀谷自治振興区	自治振興区活動への女性参加は積極的だと思いますが特に事例といったものはありません。
	五領自治振興区	よく考えると、積極的・自主的な活動は少ない。だがこれは、男性にもいえることではないか。家や仕事が忙しい。
	上市自治振興区	節分草まつりの団体客等への手作り弁当（年500食～1000食）
		手話教室・生花教室・料理教室 女性役員が企画立案して実施 琴、踊り、お茶等は同好会（他団体主催）へ自主参加
	稲草西自治振興区	女性部活動 年4～5回 生活に関する身近なテーマを中心にイベント等を行っている。
木屋自治振興区	女性の活動が、老人の活動について活発である	
	草刈り作業やしだれ桜の手入は、女性は参加しない。しかし喫茶店の経営や食べる会の主役は女性が中心である。	

女性の参画のためのそれぞれの取組について

【市民アンケート】

あなたは、女性が自治振興区の会議や行事に積極的に関わるためには、自治振興区はどのような取組をしたらよいと思いますか？また、地域、女性の家族、女性自身はどうしたらよいと思いますか？

「*****(*件)」とあるのは、回答(自由記載)の主旨を女性児童課で振り分けたもの

「自治振興区」

- 女性に参加を呼びかける(6件)
- 企画等に女性の意見を取り入れる(6件)
- 女性が参加しやすいよう、会議や行事の日程等を見直す(6件)
- 自由に意見が言える組織に(5件)
- 魅力ある行事等を企画する(5件)
- 自治振興区の活動や行事等の広報を充実させる(4件)
- 女性の参加を意識した内容に(4件)
- 女性組織の充実を(3件)
- 性別にこだわらない(3件)
- 役員の選任方法の見直し(3件)
- 今のままでよい(2件)
- わからない(7件)
- その他(13件)

「地域」

- 女性に参加を呼びかける(11件)
- 参加しやすいような行事内容の工夫(6件)
- 地域で協力しあう(6件)
- 役員(会)の見直し(5件)
- 女性の参加・参画の必要性をみんなで共有する(6件)
- 日頃の人間関係を築く(5件)
- 意見をしっかり交わす(4件)
- 今のままでよい(2件)
- わからない(3件)
- その他(5件)

「女性の家族」

- 女性が参加できるよう、協力・応援をする(16件)
- 女性も参加・参画する必要があることを理解する(7件)
- 一緒に参加する・参加するよう勧める(6件)
- 家事の負担を分担する(4件)
- 家族で自治振興区の活動について話をする(3件)
- 今のままでよい(2件)
- わからない(2件)
- その他(7件)

「女性自身」

- 行事等に積極的に参加する（8件）
- 責任をもって取り組む（8件）
- しっかり意見を言う（6件）
- 自分にできることをする（5件）
- 自信を持って参加する（3件）
- 女性もがんばれることを示す（3件）
- 家族や近所の人など身近な人に、女性の参画について理解してもらおう（3件）
- 自治振興区の活動に関心を持つ（2件）
- もっと社会に関わっていく（2件）
- 今のままでよい（2件）
- わからない（3件）
- その他（10件）

庄原市男女共同参画プラン策定推進委員会からの提案

庄原市男女共同参画プラン策定推進委員会では、アンケート結果から、女性が住民自治活動へ参画するために、つぎの5つの課題があると考えました。

【課題】

- 1 . 自治振興区、市民とも、女性が自治活動に関わるのは当然だと考えているが、実態はまだ男性が中心の運営となっている。実態として、女性が自治活動に男性と同じように自然に関われるようになるまでは、女性の参画を阻害しているものを取り除き、女性が関わりやすくなるような取組が必要である。
- 2 . 女性は、どちらかというとなり参加や参画に消極的であるため、女性のエンパワメントや女性組織の育成が必要である。
- 3 . 自治振興区の活動に関心のない人が多い。自治振興区が企画する行事等に構成員の誰もが参加しやすいものとなるよう、誰でも会議に出席しやい、発言しやすいなど、広く構成員の意見が反映されるような環境づくりが必要である。
- 4 . 多くの自治振興区で高齢化が進んでいる。10年後も元気に活動できる自治振興区であるための、長期的な視点での組織づくりが必要である。
- 5 . 自治振興区によって、規模や組織、意識等が異なっており、地域差が大きいが、互いの自治振興区の状況について情報の共有が十分でないところもある。互いに活動や運営についての参考にできるよう、情報の集約と公開が必要である。

課題解決のための取組として、当委員会の中では、次のような意見が出されました。

【意見】

女性が関わりやすくなるような取組

地域代表に男性が片寄りがちの現状では、地域代表だけで構成される役員会だと、女性が役員になりにくいと思われます。専門部や女性組織等からも役員会の構成員になれば、女性も役員会に参加・参画できるのではないのでしょうか。

女性役員について、規約に明文化することで、会員また次の役員にも女性を参画させようという意識が十分伝わると思います。例えば「副会長は男女1名ずつとする」「役員の中で、一方の性が割をくだらないよう組織する」等の枠を設けてはどうでしょうか。

女性が役員を引き受けるには、家族の理解と協力が必要な家庭もあります。女性に役員になってもらいたい場合、女性の家族にも一緒に相談してはどうでしょうか。家族が了解していれば、女性も役員として活動しやすいと思います。

会議や行事は、終了時間を明記して案内し、いつも予定時間で終わるようにすることで、忙しい中でも予定がたてられるようにしてはどうでしょうか。

女性や女性の組織の育成

女性が活躍する機会や、女性の意見をとりまとめる場が少ない自治振興区であれば、「女性部」を組織して、女性が自治振興区の活動に参画できるよう育成を図ってはどうか。（女性部等の組織がなくても、すでに女性が参画できている場合には、当然必要ないと思います。）

自治振興区以外の組織も含め、自治振興区の区域内で、女性で組織されるグループが自主的に企画する事業に対し自治振興区が積極的に支援を行ってはどうか。これをきっかけとして、女性が自治振興区に関わりやすくなり、また自治振興区も女性の人材を知ることができるのではと思います。

広く構成員の意見が反映される環境づくり

会議では、出席者全員が発言することを基本ルールとし、できるだけいろいろな視点から意見を求めてはどうでしょうか。

発言を遠慮している人にも発言を求めることで、次第に発言することに抵抗がなくなるのではないのでしょうか。そのためにも、会議の中で、誰の発言に対しても批判的な態度は控えるような会議の雰囲気づくりも必要だと思います。

同世代等話しやすい人が一緒にいると、発言や活動がしやすいと思います。性別や世代が偏ったり、固定化されないような取組が必要ではないのでしょうか。

10年後も元気な組織づくり

同世代のグループ、または若い女性のグループ（ない場合は組織する）に、事業の一つを、企画立案から実施まで自由に任せることで、住民自治活動の体験の場にしてはどうでしょうか。（後継者育成、世代交代を視野に入れて）

自治振興区の行事やイベント等を、準備から片づけまで老若男女いろいろな人が一緒に楽しく取り組むことで、住民自治活動に参画する満足感を感じるようになるのでは。そういった様子を子ども達に見せることで、次の世代にも活動が引き継がれると思います。

自治活動の情報共有

他の自治振興区の活動や運営方法が、それぞれの自治振興区の参考になるものも多いはず。お互いに関心をもつことも必要だと思います。

各自治振興区の情報が集まるのは行政。情報の集約と共有ができるよう取り組んで欲しいと思います。

自治振興区は、住民自治を基本とした組織ですから、設立の経緯や人口規模等により、各地域で運営方法も大きく異なるのは当然ともいえます。

このため、ここであげた課題をすでにクリアされている自治振興区や、ここにあげていない課題がある自治振興区もあると思います。

この提案は「このようにしてほしい」というものではなく、「こんなやり方もあるのでは」という私たちの意見です。

このアンケート結果や、私たちの提案が、今後の自治振興区の運営や活動の参考になれば幸いです。

平成22年6月

庄原市男女共同参画プラン策定推進委員会 委員一同

(資 料)

市の男女共同参画施策に対する意見	45
アンケート用紙（自治振興区用）	
アンケート用紙（市民用）	

市の男女共同参画施策に対する意見

【自治振興区アンケート】

男女共同参画についてもっとPRや施策が必要（7件）

- ・ 家庭や地域に対して、引続きご理解いただけるよう啓発活動を行なってほしい
- ・ 今後とも、積極的に推進していただきたい。自治振興区を活用する取組が必要ではないか。
- ・ 今後においても、市の方で活発な活動をしてほしい。
- ・ 際立った施策としての認知度が低いと思われる。重要な課題であり、引き続き施策の柱として着実に実施していただきたい。
- ・ 昔からの慣習で、女性が積極的に参画するという考えが少ないので、施策による誘導が必要である。女性の共同参画意識の向上策が必要（女性自身の問題として）
- ・ 男女共同参画社会の実現に向け、取り組まなければならないことが2つの側面から必要と考える。1つは、なんと言っても法制関係の整備と法の執行厳守である。もうひとつの側面は、男女共同参画社会の実現に向けた、社会的機運の醸成と啓発です。法制関係では、男女雇用機会均等法も施行されているにも拘わらず、県内の1時間当たり、平均所定内給与では68.3%の男女格差、女性の登用という点では、率先垂範すべき市の場合でさえ、女性委員の割合が、まだ24.5%という現状など、改善すべき課題があります。
一朝一夕には行きませんが、国際女性デー（3月8日）100周年にあたる本年を契機とし、進める歯車の回転を早めることは確かに大事になっています。このことが社会的機運の醸成を大きく後押しすることとなります。いずれにしても、機械的な指示、命令にならないよう、しっかりとした議論と啓発が必要と感じます。
- ・ 地域住民に男女共同参画についてのPR、具体的な施策を示す事が大事だと思う。

男女双方の参画をめざしたい（7件）

- ・ 今回のアンケートは自治振興区活動への女性参画に関するものでありましたが、今後も男性、女性の意識はお互い尊重しながら自然体で地域活動を進めていきたいと思っておりますので、これからもいろいろな情報がありましたら、発信いただきますようよろしくお願い致します。
- ・ 大切なことなので、施策を推進しましょう。
- ・ 大変良い事だと思います。
- ・ 男女協働で地域づくりを進めていきたいので、積極的に男女共同参画の施策を進めていただきたい。
- ・ 男性も女性も、地域をになう大事な人材で有るので、夫婦で参加し、多くの意見を取り入れた自治にしたい。女性の力は偉大であります。
- ・ 男性女性の声を、共に聴くことのできる自治市民活動により、住民の多様な要求・要望を振興区に生かさなければと考える
- ・ 当自治振興区も女性の参画を目指しており、市の男女共同参画施策に合致していきたい。

自治振興区活動と個人の生活（家庭・仕事）との両立が課題（5件）

- ・ よいことだと思う。が、なかなか参画が難しいところがある。家庭内の雑用が多い。
- ・ 高齢者の多い地域で若いお母さん方が非常に少ないためと、職場等に勤めが多いので休日以外の参加が少ない事。逆に休日は家庭サービスが中心の生活スタイルに会として干渉できづらい。
- ・ 女性も役員 etc になってほしいと考えるが会合 etc 夜行うので参加出来にくい面もある
- ・ 男女共同参画は、良い事ですが、高齢世帯が多くなり、役員を出来る人が限定され、特に女性は、家事、育児、介護等で、会議に出席出来にくい状況があります。
- ・ 非常に良いことと思います。働き盛りの世代では、家庭内も家事あり、難しい部分もあるのでは。女性一人ひとりの意識の持ち方では。

このアンケートの内容に疑問（４件）

- ・ アンケートの質問内容が、一定の答えを想定しているように感じる部分がある。選択肢に適当なものが少ない。
- ・ アンケートの設問の事例がおかしい。着地点を予想させるような問いが多くある。男女平等であるけれど肉体は異なるのも事実。
- ・ 女性の参画促進の手がかりとすること・・・とある事に理解出来ない面有り。
- ・ 本アンケートの意図がみてとれません。一体何をなさろうとされているのか、説明をして下さい。（女性会員（役員）などから、不満の声がありました。）

女性の活躍の場を増やしたい（４件）

- ・ 住民自治による女性組織が無い状態が自治振興区組織が設立する前、永く続いていた。そのことが女性の住民活動への進出が遅れていたのではないかと思っている。自治振興区にそれなりの組織、ポストを設けることが必要だと考えて検討中である。
- ・ 女性が活躍できる部活動を増していけたらよいと思う。
- ・ 女性副市長制の検討
- ・ 即、役員を女性半数にするとかは難しい状況と思うが、住民の意識改革を通して、女性の参画を促していける様すべしと思う。特に、公民館の自治振興センターへの移行が決定しているので、新たな組織の出発時が非常に良い機会となると思われるので女性が役員となれる様努力して行きたい。

このままでよい（３件）

- ・ 男と女の得意なことで、区を運営している。女が草刈りに出ること、男が食べる事をする事で、仕事（運営）がうまくいくとは限らない。今もこれからも得意なことでの参画が一番で、今のところは片寄りがあるが、それが問題とする考えには賛同できない。
- ・ 男女共同参画施策は悪い事ではないが、その反面男性（父親）の権限がなくなっていくのではとの意見もある。
- ・ 日常的なことを、あらためて見つめてみて、女性らしさや男性らしさのままでよいのでは。生きる目的はなにかをあらためて見つめてみるのが大事だと思う。

男女を意識する必要はない（３件）

- ・ 男も女も同じ人間であるので、特に意識する必要はない。役割も適材適所に配置し、単純に男女の比率などで決めるべきでない。
- ・ 男女関係なく、地域振興のため、しっかり参画するべきと思います。今回の回答については女性部長にお願いしました。日頃の気持ちがどの様に考えられているのか、この回答を見ていただければ良く分かります。
- ・ 男女共同参画社会と、限界集落が消滅集落になると、重点施策は？男性とか、女性とかでなく、この集落を１人の住人としてどうしようかの意識を高める必要を感じています。男も女も、人間としては平等。少子高齢、過疎化で、限界集落、消滅集落とささやかれるような地域にあっては、男女云々とは言っていない状況にある。（状況が現状を変える）お互いにできることはやる「お互いさま」で協力していかなければ村は守れない。一人暮らし、または障害等をもっていると、老人は男とか女とか言っていると、集落のつきあいができない。
性差によって生じる違いを、男女の組み合わせによって活力に変えることが大切。プロジェクトは異質なものの組み合わせで成果がでる。男と女は異質であるからこそ、共同で事にあたることで活力が生れる。違いを認めあって、同じ目的をめざすことは大切。

Q15「女性が頑張っている事例」？男性社会を意識して、男性に対抗（競争）してという意味ですか？
であれば、集落はそんな状況ではない。過疎。

すでに男女とも参画している（1件）

- ・ 当振興区は特に男女の区別なく活動していると思う。

その他（2件）

- ・ 振興区役員構成に当たって、男女共同参画の視点から、女性部という組織は好ましくないという女性の考え方があり、未だ体制が出来ていない状況です。質問の設定と異なるようですが、助言をいただきたい。
- ・ 男女というレベルではなく、役員になるのは自分でなければ誰でもよいという考えの人が多いと思う。

【市民アンケート】

男女共同参画について（38件）

- ・ 目標や希望はあっても、それに向けての具体的な取り組みがまだまだ必要なのではないかと思います。地道な活動を続けていくことが大切なのではないかと思います。（男性/18～29歳）
- ・ 私個人の意見として、男性・女性にかかわらず、おかしなことさえしなければいいと思う。（男性/18～29歳）
- ・ “女性の参画”ということそのものが、男尊女卑だと考えます。男性は外で働き、女性は外でも内でも働き・・・という状況がある限り、参画そのものが女性の更なる負担になるのでは？（女性/30～49歳）
- ・ 取り組みの内容があまり良く分からないので、広報等で取り上げて欲しい。（女性/30～49歳）
- ・ 地道に、一人でも多くの人に、まずは問題意識を持ってもらえるような取り組みを継続していただください。「男女共同参画」が自分の生活にどう関係するのか、積極的に情報提供して、みんなが働きやすく生活しやすい社会になることを願っています。（女性/30～49歳）
- ・ 本当に男女平等を希求するのであれば、庄原市にも優秀で強い女性のリーダー（市長・副市長・助役等）が必要。・・・中央（政府）からもメッセージが伝わって来ない。地域主権にも不安を感じる。（男性/50～64歳）
- ・ 女性の参加は大いに良いと思いますが、参加しやすい状況を作るべきだと思います。（男性/50～64歳）
- ・ 本当の参画はなにですか？（男性/50～64歳）
- ・ 男女ということだけでなく個人として責任もって活動すること。またその体制作りが大切と思う。しかし、性差による役割分担もあることも認める必要があると考える。（男性/50～64歳）
- ・ この言葉の持つ意味が良く分からない。考え方によっては、女性はもっとでしゃばるようにも思える。やはり女は男に従うべし。女が強くなるから男が弱くなる。（女性/50～64歳）
- ・ 特にはございませんが、性別なく健全に営まれていることに対し有り難く思っております。（女性/50～64歳）
- ・ 良いと思う。（女性/50～64歳）
- ・ 男女平等であり、特に問題はない（回答なし/50～64歳）
- ・ 子供たちの多くは、幼児期から小・中と女性の中で女性の目で育っている。男と女の“性”を把握しないで、男の子たちが病み、大人になれないでいる。だからこそ、世代を超えた動きを作るべき時だと思っている。“女の世界”“女のためだけの社会”はこわい。共存社会を。定年退職を前にした男が話しに来た。「知り合いとグランドゴルフをする自分しか思い浮かばない」と誇りある暮らしをやりたいという。子育て支援センターに出入りする母子たちが遊びに来た。自分の子だけ見て、その後を追うだけの母親達に疑問を感じた。なぜ自分が自分達が親子一緒に遊び暮らす場を持つとしないのか？“主体を失った大人”たち、それをつなぐものは・・・と地球の豊かさを守る暮らしを共にやってみたい。（男性/65～74歳）
- ・ 良い事だと思います。（男性/65～74歳）
- ・ 男女とも同じように、という考えが先行すると、何事もスムーズにできません。自然に協力しあえるような行事が必要（男性/65～74歳）
- ・ 今から高齢者が多くなるので、このような活動はやめていただきたい。（男性/65～74歳）
- ・ 市の広報誌などに、女性の方に積極的に参加されることを知らせてほしい。（男性/65～74歳）
- ・ 男女共同参画にまだ参加していないので特に意見はないが、出来れば参画するようにしたい。（男性/65～74歳）
- ・ 自治振興区とは？男女共同参画策？高齢者が多く、男一人暮らし又は女一人暮らし等、男女別に考えていない。みんなで協力しなければ・・・（女性/65～74歳）
- ・ 高齢化社会となって、元気な女性が多く見受けられます。振興区の役員さんや、イベントのリーダー等へ1割くらいの女性を作ることで、協同参画への女性進出への誘導ができるかもしれません。（女性/65～74歳）
- ・ 女性の指導者もたくさんおられますが、すべての人に優しく謙虚に接して欲しい（女性/65～74歳）

- ・ 若い世代は、女性の参加参画が問題ですが、高齢者になってからの男性は、いろんな会合に出席が非常に少ない。若い時の男性の意識が開放されていないで、老いては老いを見下している。男性は閉鎖的な人が多い。（女性/65～74歳）
- ・ 残念ながらどのような事業がなされているのか？良く分からない。いつか一度何かなさった時は・・・あっ親子でなければ参加できないしと思ったり、遠くであったり。（女性/65～74歳）
- ・ 市が男女共同参画についてどのような施策を講じているか全く不明な中、意見や要望を望むなら、施策なり具体的な行動計画を示し、意見を求めるべきです。今回の調査結果が、調査のための調査にならぬよう、市の会報で内容を分析され、市民に公表されるようお願い致します。（男性/75歳以上）
- ・ 女性の参画促進のPR（男性/75歳以上）
- ・ 少しでも女性の資質を向上させて利用すること（男性/75歳以上）
- ・ 女性の男女共同参画とか、女性が稼がねばならぬ社会では、少子化は解決できないと思う。（男性/75歳以上）
- ・ 男女ともなんでも話し合いが気軽に出来るようである。（男性/75歳以上）
- ・ この事業に関するPRをすべきである（男性/75歳以上）
- ・ 女性がもう少し参画出来るような市政であってほしい。（女性/75歳以上）
- ・ 女性自身の自覚によるものですから、中々難儀なことと思いますが、継続してご指導下さい。（女性/75歳以上）
- ・ 男女共に意見交換が出来てすばらしいと思う。（女性/75歳以上）
- ・ 若い女性の方は頑張ってほしいと思います。でも今の農村には女性の方も少ないので無理かとも思っています。お役にたてなくてすみません。もう少し人選に考えて欲しいです。（女性/75歳以上）
- ・ 大変に良いと思います。（女性/75歳以上）
- ・ 男女共同参画もこれまた男女相愛でやらねばいけないと思うので、自治振興区の行事とは別に考える。又は一緒に考えること、話し合っていくことができる。（?読めない）自治振興区と男女共同参画は一人2この事業を（女性/75歳以上）
- ・ 昔の風習が残っているように思う。男女共同参画は女性自身の考え方を変えて参加していただきますようお願い致します。（女性/75歳以上）
- ・ 色々な事業に関心はありますが、誌上にも書きましたが交通不便なので諦めています。（女性/75歳以上）

アンケート調査について（4件）

- ・ このようなアンケートを実施して、市の施策に参考することは、良いことだと思う。（男性/30～49歳）
- ・ 市民1,000人のアンケートが何%回収されるかどうか？率が低ければ関心がないということになる。回答された方の意見を集約し、このものが無駄にならないよう、参画係の手腕に期待します。（男性/65～74歳）
- ・ はっきり答えられない所があり、お役に立てないと思います。すみません。（女性/65～74歳）
- ・ 現在はホームの方へお世話になっている身分でありこのアンケートへお答えする該当はありません。（女性/75歳以上）

自治振興区について（13件）

- ・ 自治振興区というものを知らないのが大変申し訳ないのですが、何事にも男性と女性においてそれぞれ別々の物事の捉え方があると思います。より多くの考え方を求めるのであれば、何をするにしても男女共同の方が良いと思います。（男性/18～29歳）
- ・ 自治組織（振興区）は、自治体が行政目的を達成するために存在するのではいけないと思う。（男性/50～64歳）
- ・ 自治振興区も、押し付けによる女性役員の指名などでなく、課題を見つけ、自発的に課題解決に取り組めるようにもっていかないと、役員を嫌々受けて負担に感じるだけになってしまう。三役をはじめ、組織の姿勢、雰囲気重要と思う。（男性/50～64歳）

- ・ 自宅は東城ですが、仕事場が福山市であり、仕事に追われる毎日の中、自治振興区（10年前に帰省）というものの存在すら知らずに過ごしてきたことを恥ずかしく思います。自分の住む町を良くしたいキモチは充分ありますので、これから勉強させていただきます。（女性/50～64歳）
- ・ 同年代の集まりのように思える。内容もいまいち1市6町住民に知れていない。住民の意見が言える場であってほしい。名だけの役員もいるはず。（男性/65～74歳）
- ・ 自治振興区が出来る前は、集まることもなく静かでした。今は地域全体が明るくなったような気がする。（男性/65～74歳）
- ・ 地域行事には一家総出で参加できるように、企画内容、交通手段等の取り組みに配慮して「知らなかった」がないようにアピールを！（男性/75歳以上）
- ・ 新しき雰囲気を作っていただきたい（男性/75歳以上）
- ・ 最近は近所交流がないので、人それぞれの愛情がないので淋しいです。（女性/75歳以上）
- ・ 若いお父さんが役員をしているのであまり良くわかりません（女性/75歳以上）
- ・ どの地域でも、まず顔を知らない人の中に行っては何も面白くないのが普通で、会う機会が出来れば楽しみもわいてくる。今では遠くへは出られませんが、若い方はつまらない事でも顔を合わせる機会があれば知恵を出し合って色々な事が発展していくものではないでしょうか。（女性/75歳以上）
- ・ 出席をした事がないので分かりません。（女性/75歳以上）
- ・ 申し訳ありません。高齢で、それに腰の手術していたみまずので参加致してません。（女性/75歳以上）

地域づくりについて（4件）

- ・ 老若男女問わず、積極的な施策により、魅力的な庄原を築いてほしいと思います。広島ひいては東京のようになる必要はありません。庄原の良さをもっともっと引き出せるようにしてください。（男性/30～49歳）
- ・ 住み良い地域にして下さい。（男性/30～49歳）
- ・ 何をするにも、熱意のあるリーダーが必要で、体力、活動時間など若い人と高齢者、市街地に住む人と辺地住まいの人など差があり、生き方も考え方も違います。理想的な社会づくりには、人々がまじめに生きることです。（女性/75歳以上）
- ・ テレビなどで庄原市をアピールするようなことを考えてみては（女性/75歳以上）

その他（17件）

- ・ 特にありません。頑張ってください。（男性/18～29歳）
- ・ がんばってください。庄原市が、人口が増えるよう合コンをすれば良いと思います。（男性/30～49歳）
- ・ 仕事を出して欲しい（男性/50～64歳）
- ・ 自分はもうすぐ高齢者になるので、自分の事でいっぱいです。（女性/65～74歳）
- ・ 今の若い人が声をかけて下さる事をお願い致します。（女性/65～74歳）
- ・ 高齢のため、私達が意見を申し上げるのは控えます。（女性/65～74歳）
- ・ あまり色々な事に積極性がない（女性/65～74歳）
- ・ 中国新聞にのる記事は、旧庄原市のものはほんの一部。後は東城、比和、西城等のものばかり参加のしようがない。（男性/75歳以上）
- ・ わかりません。（男性/75歳以上）
- ・ Q12.13の意見と同じです。（男性/75歳以上）
- ・ 歳なので考えていない（男性/75歳以上）
- ・ 歳をとっておりますので、お世話になります。（女性/75歳以上）
- ・ 私は一人暮らしですので、皆さんのお世話になる方が多いのでよろしくお願いいたします。（女性/75歳以上）
- ・ わかりません。（女性/75歳以上）
- ・ わからない（女性/75歳以上）

- ・ 高齢化の中、残り少ない人生、元気で明るく楽しい生活を送れることを望みます。（女性/75歳以上）
- ・ 何事も前向きに（回答なし/75歳以上）

